

第1回瀬戸内島旅活性化研究会

2021年 6月21日

**香川大学大学院地域マネジメント研究科
本州四国連絡高速道路株式会社**

第1回 瀬戸内島旅活性化研究会

■日時：2021（令和3）年6月21日（月）15:00～17:30

■場所：JRホテルクレメント高松 飛天の間
ZOOMによるオンラインを併用して実施

■議事次第：

1. 開会
2. 事務局挨拶
3. 座長挨拶
4. 議題
 - ・議題Ⅰ 本島・広島における香川大学大学院地域マネジメント研究科による地域活性化提案
 - ・議題Ⅱ 今年度の香川大学大学院地域マネジメント研究科と本四高速による共同研究事業について
 - (1)塩飽諸島各島の自然環境、歴史・食文化等の地域資源を活かした体験プログラムの企画
 - (2)魅力度の高い塩飽諸島等における周遊島旅ツアーの企画
5. 閉会

「瀬戸内島旅活性化研究会」の設置趣旨について

資料1

○現在、全国的に多くの離島が、人口減少、高齢化等の課題を抱えている。その一方で、瀬戸内地域は、島・海の織りなす優れた景観に恵まれ、古くから海上交易の拠点として栄えてきた歴史があり、また、独自の文化など高いポテンシャルを有している。

○そうした中、今後の瀬戸内地域の活性化を図る上で、これらのポテンシャルを活かした島旅の活性化は重要課題であり、特に今後の**2022** 瀬戸内国際芸術祭、**2025** 大阪万博を見据えた場合、喫緊に対応すべき課題と考えられる。

○この観点から、香川大学大学院地域マネジメント研究科と本州四国連絡高速道路株式会社(以下、「本四高速」という。)は、昨年度から、これら瀬戸内の島々、特に、塩飽諸島等における島旅の活性化を目的とした共同研究に取り組んでいるところである。

○さらに、この共同研究に加えて、香川大学大学院地域マネジメント研究科と本四高速は、瀬戸内地域経済の活性化に関心の高い有識者、島民の方々、民間事業者、**DMO**・観光協会、行政機関(自治体・国)等が一堂に会し、瀬戸内地域における島旅の活性化方策について意見交換等を行う「瀬戸内島旅活性化研究会」(座長 香川大学大学院 地域マネジメント研究科長 原真志教授)を、本年4月1日に設置したところである(主催及び事務局 本四高速)。

○研究会においては、事務局から、

- ・塩飽諸島各島の自然環境、歴史・食文化等の地域資源を活かした体験プログラムの企画
- ・魅力度の高い塩飽諸島等における周遊島旅ツアーの企画

等の提案・意見交換等を行うこととし、それらの成果については、共同研究事業に反映させることとする。

・有識者

〈座長〉 香川大学大学院 地域マネジメント研究科長 原 真志氏

(五十音順)

池田 信浩氏 日本放送協会 高松放送局長
片山 雅大氏 株式会社MELZ 代表取締役
加藤 琢二氏 一般社団法人 日本旅客船協会 副会長
小西 智都子氏 株式会社 SETOUCHI SEAWIND 代表取締役
小林 希氏 株式会社 Officeひるねこ 代表取締役
横山 昌太郎氏 森林インストラクター

・島民の方々 本 島 :信原 清氏 丸亀市本島地区地域づくり推進協議会 ふれあいの本島 副会長
広 島 :平井 明氏 丸亀市広島地区連合自治会 会長
志々島 :山地 常安氏 三豊市詫間町志々島自治会 会長
粟 島 :平木 利明氏 三豊市粟島海洋記念公園 ル・ポール粟島 支配人

・民間事業者 (五十音順)

穴吹エンタープライズ(株)、(株)穴吹トラベル、(株)エイチ・アイ・エス、(株)近畿日本ツーリスト中国四国、琴平バス(株)、(株)JTB、四国旅客鉄道(株)、高松空港(株)、(有)ロワール商事

・DMO・観光協会等 (五十音順)

(一社)せとうち観光推進機構、(株)瀬戸内ブランドコーポレーション、(一社)四国ツーリズム創造機構、児島商工会議所、(公社)香川県観光協会、(一財)丸亀市観光協会

・行政機関 (国)

農林水産省中国四国農政局、国土交通省四国地方整備局、国土交通省四国運輸局、環境省中国四国環境事務所四国事務所

・行政機関 (自治体) 香川県、高松市、丸亀市、坂出市、三豊市、土庄町、小豆島町

・事務局

香川大学大学院地域マネジメント研究科、本州四国連絡高速道路(株)

(名称)

第1条 この会議は、「瀬戸内島旅活性化研究会」(以下「研究会」という。)と称する。

(目的)

第2条 瀬戸内地域は、島・海の織りなす優れた景観に恵まれ、古くから海上交易の拠点として栄えてきた歴史があり、また、独自の文化など高いポテンシャルを有している。そうした中、研究会は、今後の瀬戸内地域の活性化を図る上で、これらのポテンシャルを活かした瀬戸内の島々、特に、塩飽諸島等における島旅の活性化が重要課題であることにかんがみ、地域社会の充実という視点を重視して、地域資源を活かした体験プログラムの企画、周遊島旅ツアーの企画等の島旅の活性化方策について意見交換等を行うことを目的とする。

(取組内容)

第3条 研究会は、次に掲げる事項について意見交換等を行う。

- (1) 塩飽諸島各島の自然環境、歴史・食文化等の地域資源を活かした体験プログラムの企画
- (2) 魅力度の高い塩飽諸島等における周遊島旅ツアーの企画
- (3) これら以外の瀬戸内地域における島旅の活性化方策

(構成員)

第4条 研究会は、瀬戸内地域経済の活性化に関心の高い有識者、島民の方々、民間事業者、DMO・観光協会、行政機関(自治体・国)等から座長が指名した者及び組織により構成されるものとする。

2 研究会に座長を置き、香川大学大学院地域マネジメント研究科長 原真志氏をあてる。

(会議)

第5条 研究会は、座長が必要に応じて開催し、その議長となる。

2 座長は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

3 研究会は、原則として公開で行うものとする。

(事務局)

第6条 研究会の事務局は、香川大学大学院地域マネジメント研究科及び本州四国連絡高速道路(株)において行う。

(その他)

第7条 この規約に定めるもののほか、規約の変更及び研究会の運営その他の軽微な事項は、座長と協議し、事務局において行う。

附則

この規約は、令和3年4月1日から施行する。

テーマ

地域社会の充実をベースとした持続可能な観光による地方創生

＝観光に頼る地域活性化ではなく、地域の人々が活躍できる観光の場を創造

方策

島民とのコミュニケーションを重視し、地域の現状把握、人々の意思を確認する

地域本来の特性を生かし、島民が参加する意欲を持てる取組みを共に練り上げる

大きな社会経済の動きの中で島の可能性を見出し、

必要な外部プレイヤーとの適切な協力関係を構築し、島の間をつなげ、

地域を中心としたビジネスの仕組みを構築し、島に魅力的な雇用の場を生み出す

ゴール

人々が生き生きと幸せに暮らすことができる島を実現する

本島の資源(現状)

- 😊 島内リーダー
- 😊 島内プレイヤー
- 😊 島外連携プレイヤー

【食文化の資源】

- ◇本島スタンドの存在
- ◇笠島地区での食の提供意思
- ◇維持されている漁業の営み
- ◇漁師料理勉強会の実績

【食文化の活用策】

- ◆地元と密着してのメニュー開発
- ◆古民家活用しての食の提供



【歴史・文化の資源】

- ◇塩飽の歴史に誇り
- ◇塩飽水軍・廻船業
- ◇塩飽大工の研究実績
- ◇江戸時代の自治
- ◇空き古民家の活用
- ◇日本遺産の丁場跡

【歴史・文化の活用策】

- ◆島の歴史の活用
- ◆島民の参加促進

自然環境



【自然環境の資源】

- ◇島からの瀬戸大橋の眺望
- ◇国際航路含む船舶
- ◇園の州
- ◇ジオフードの可能性

【自然環境の活用策】

- ◆島のジオ資源の活用
- ◆ジオガイドの人材育成
- ◆漁業コミュニティ

【島の課題】

- ・人口減少、少子高齢化
- ・島内交通の便
- ・宿泊施設の少なさ
- ・食の提供場所
- ・ガイドの後継者育成
- ・島の西部、東部の衰退

地図: Google map

広島県の資源(現状)

- 😊 島内リーダー
- 😊 島内プレイヤー
- 😄 島外連携プレイヤー

【食文化の資源】

- ◇食生活改善推進協議会の活動
- ◇地元短大(生活文化学科)との交流
- ◇料理に関心の高い女性
- ◇市民センターのキッチンスペース

【食文化の資源の活用策】

- ◆地元と密着したメニューの開発
- ◆古民家を活用した食の提供

食文化



歴史・文化



自然環境



【自然環境の資源】

- ◇島のジオサイト
- ◇王頭山、心境山
- ◇ジオフードの可能性

【自然環境の資源の活用策】

- ◆島のジオ資源の活用
- ◆ジオガイドの人材育成

【歴史・文化の資源】

- ◇塩飽廻船業の歴史
- ◇石材産業の歴史
- ◇青木石の石切り場
- ◇古民家(尾上邸他)
- ◇弘法大師ゆかりの山

【歴史・文化の資源の活用策】

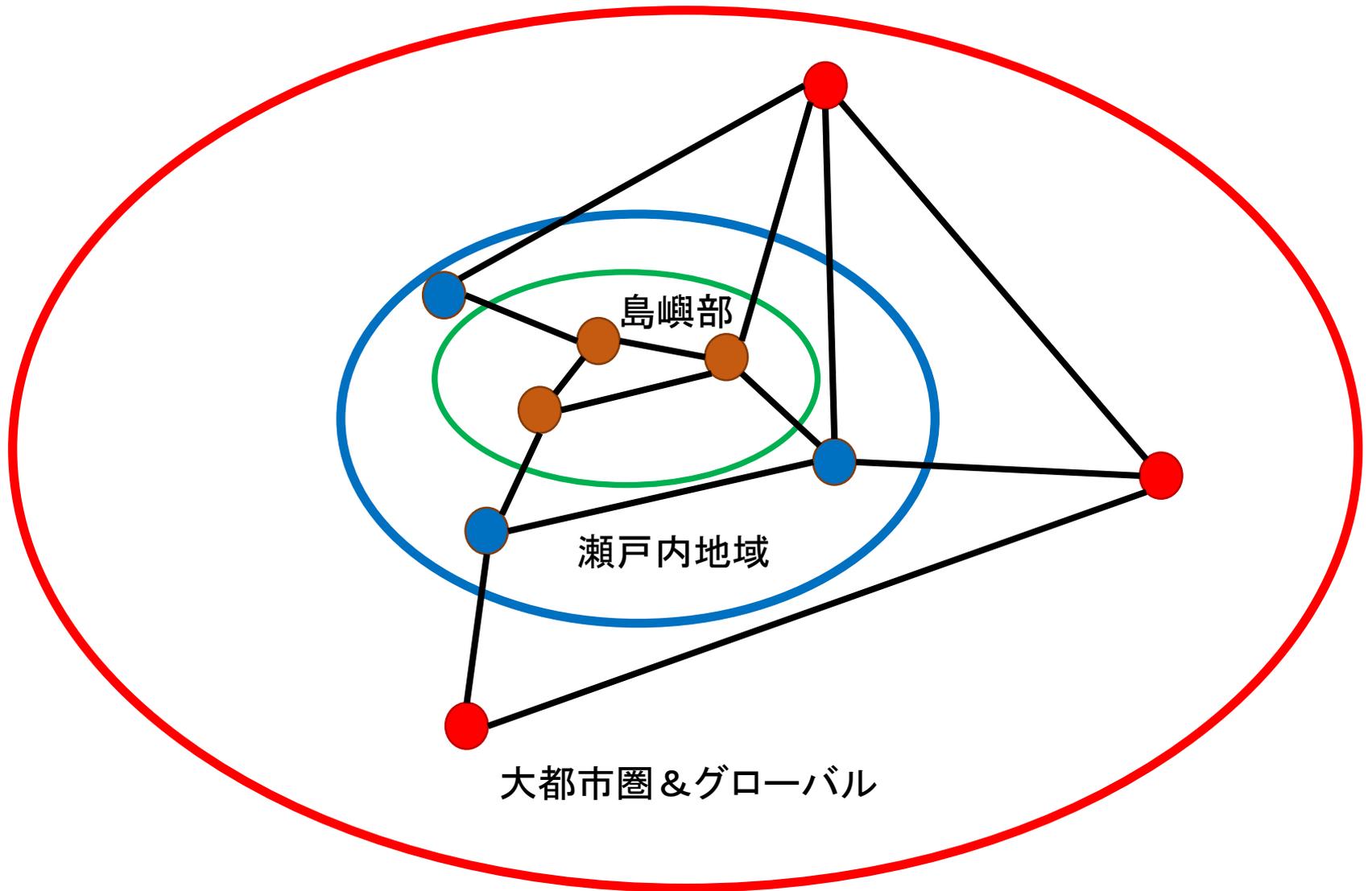
- ◆島の歴史の活用
- ◆島民の参加促進
- ◆島と島の間や丸亀市との連携

【島の課題】

- ・人口減少、少子高齢化
- ・島内交通の便
- ・宿泊施設の少なさ
- ・食の提供場所がない
- ・ガイドの育成
- ・生活を維持することに精一杯な自治会

地図: Google map

島旅活性化の空間構造



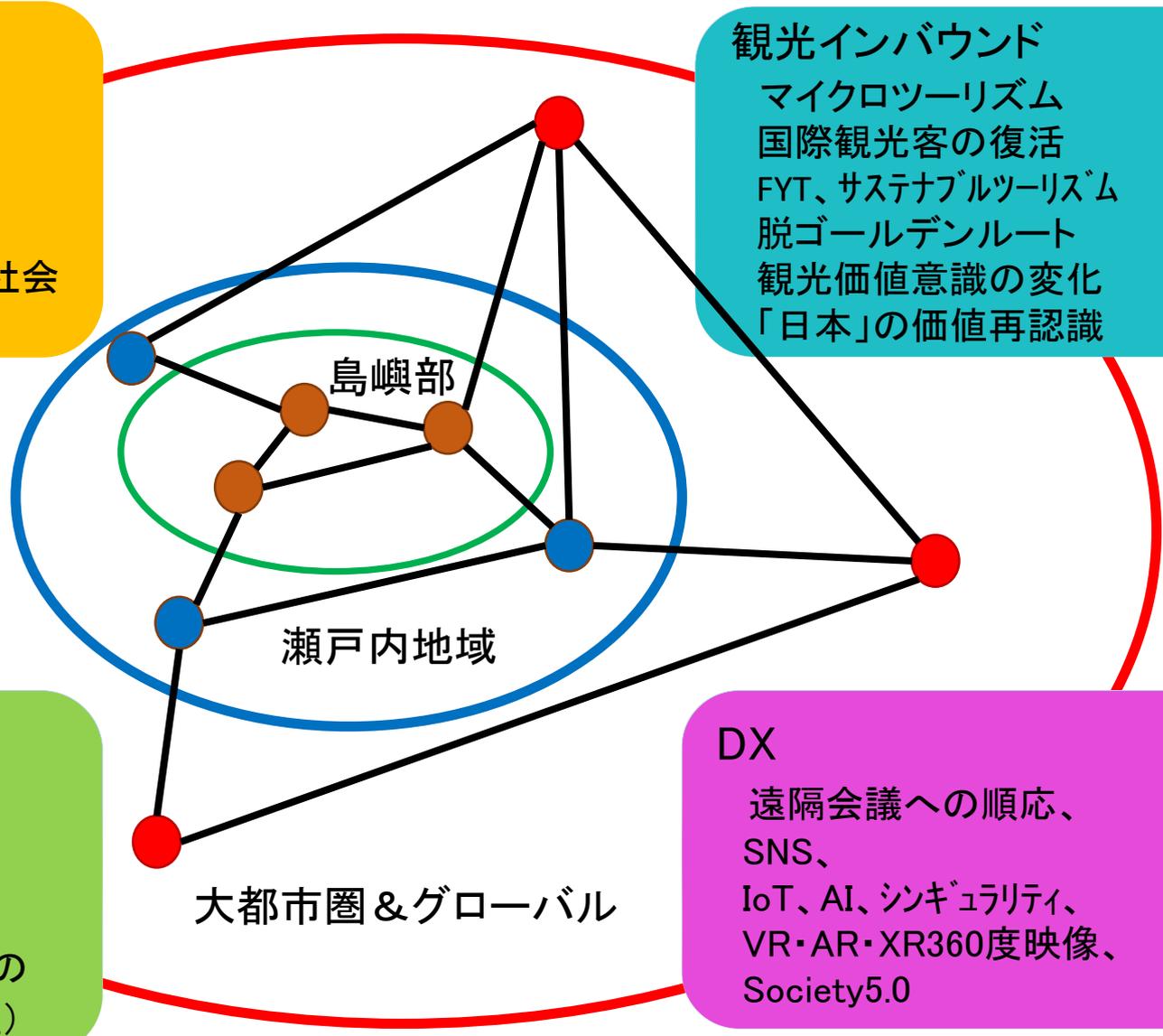
島旅活性化を取り囲む社会経済状況

アフターコロナ

疲弊した経済の復興
新たなビジネス機会
価値観、ライフスタイル、
キャリアデザインの変化
SDGs、持続可能な経済社会
ポスト資本主義社会

観光インバウンド

マイクロツーリズム
国際観光客の復活
FYT、サステナブルツーリズム
脱ゴールデンルート
観光価値意識の変化
「日本」の価値再認識



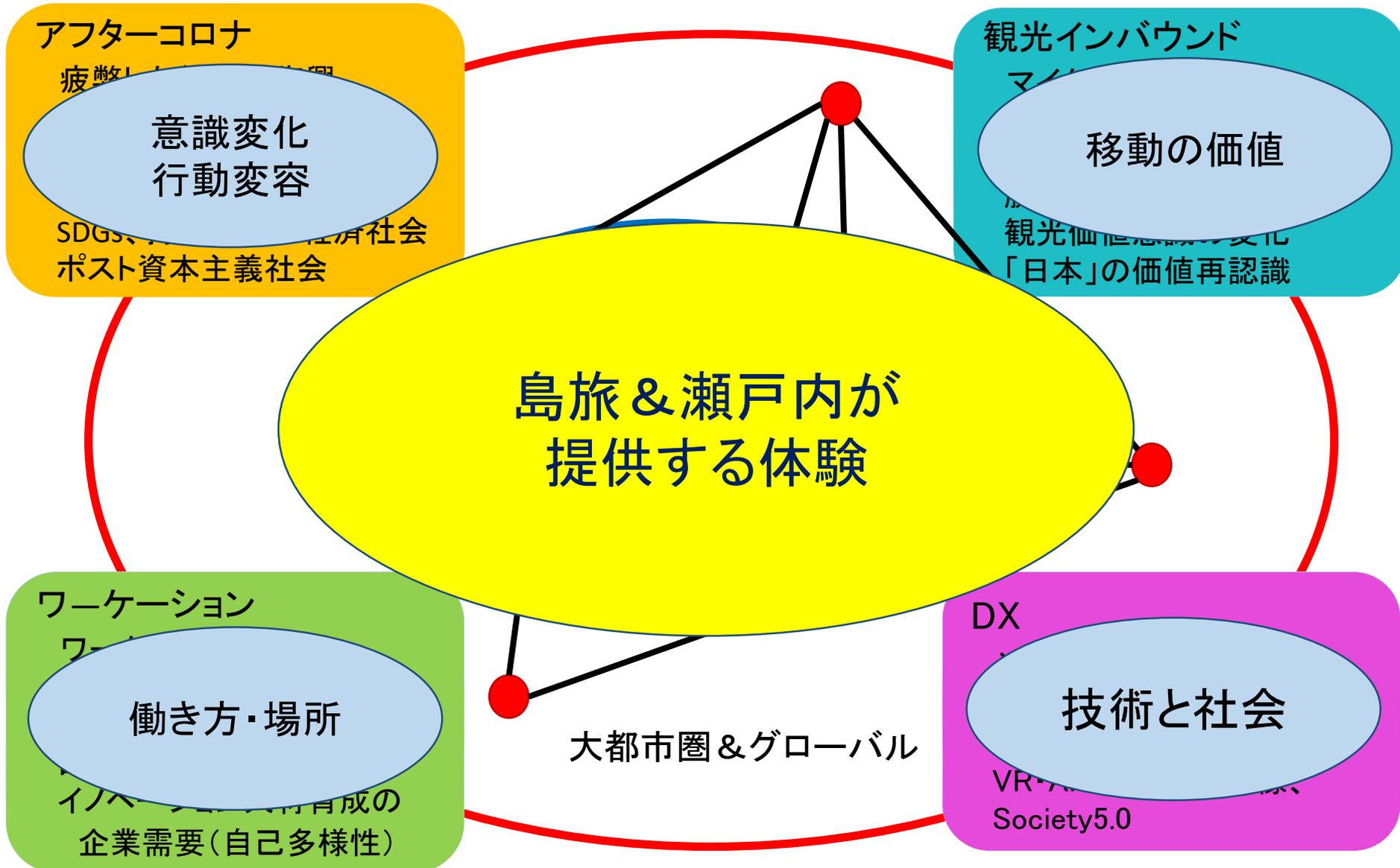
ワーケーション

ワークライフバランス
ライフシフト
デジタルノマド
田園回帰、I・J・Uターン
イノベーション人材育成の
企業需要(自己多様性)

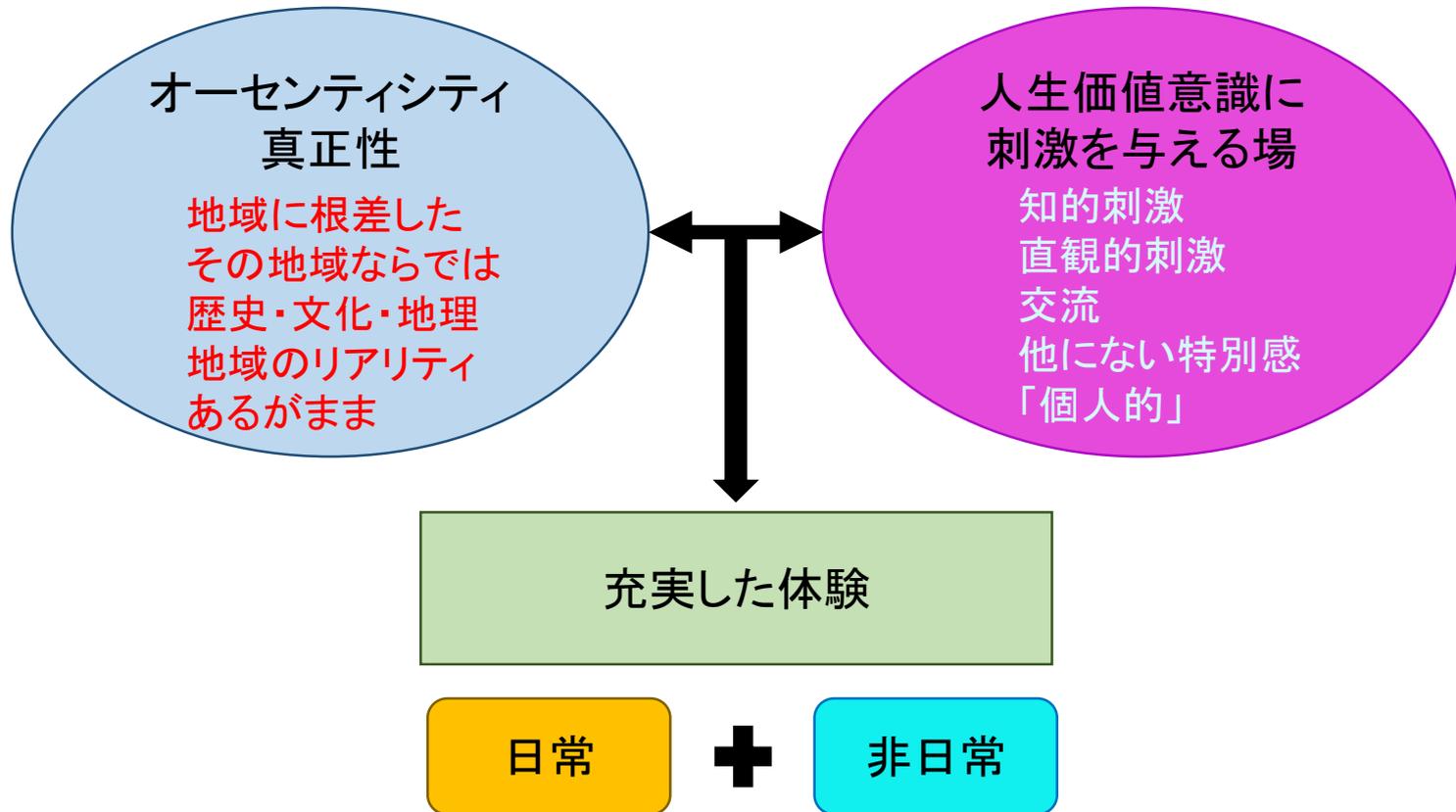
DX

遠隔会議への順応、
SNS、
IoT、AI、シンギュラリティ、
VR・AR・XR360度映像、
Society5.0

社会経済動向を踏まえた島旅活性化



地域と観光のコア



観光の語源

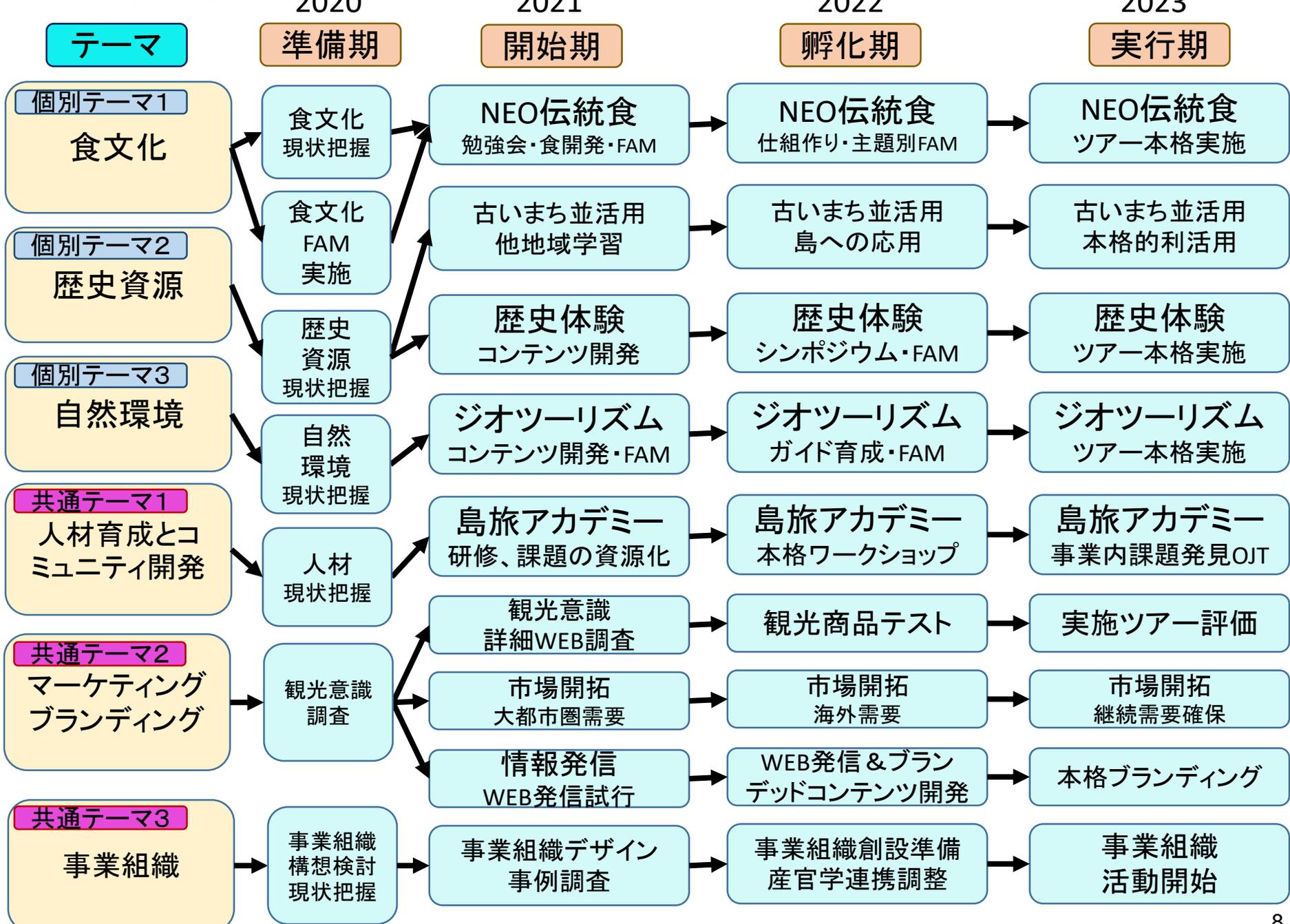
「觀國之光利用賓于王」(國の光を觀る【みる】もって王に賓たるに利し【よろし】)『易經』

「光」とは、

- ・「国民が幸せに生活している様子などを指す」つまり、「目に見えない輝き」、
- ・結果として現れるもので、目に見えるものや情報などを通して感じられる輝き

出典 : <http://kankou-kou.cocolog-nifty.com/tourism/2009/07/post-8566.html>

ステージ別取組み



香川大学大学院地域マネジメント研究科 2020年本島・広島合宿について

◆合宿1日目プログラム

日時：2020年9月19日（土）
 調査地：本島、広島（与島）
 参加者：学生22名、教員8名
 有識者4名、関係者数名



広島グループ	本島グループ
9:00 高松港出港	8:30 高松港出港
10:00 広島（江の浦港）到着	9:10 与島港着
◆現地視察（釜の越採石場，青木採石場，残念石の海岸，茂浦（旅ねこ，ひるねこ）	◆与島PA展望台見学
12:20	9:50 与島港発
◆昼食（船内）	10:10 本島（泊港）到着，レンタサイクル
13:10	◆現地視察（木鳥神社，千歳座，塩飽勤番所，両墓制，吉田邸，笠島地区）
◆現地視察（尾上邸）	13:05
14:00	◆昼食（船内）
◆意見交換会（広島市民センター：平井明氏，筒井政人，山本一博氏，山本典昭氏，東末男氏，上野孝雄氏）	14:45
16:00	◆現地視察（正覚院）
16:15 江の浦港出港	15:35
16:55 与島港着	◆意見交換会（正覚院：三好祥晃氏，三宅邦夫氏，信原清氏）
◆与島PA展望台見学	17:20
17:35 与島港発	17:35 本島港出港
18:35 高松港到着，解散	18:35 高松港到着，解散

◆合宿2日目プログラム

日時：2020年9月20日（日）
 場所：香川大学内講義室
 参加者：学生23名、教員10名
 有識者4名、関係者数名

- 本島、広島各2班に分かれる（全4班）
- ◇グループディスカッション
 - ◇グループワーク
 - ◇プレゼンテーション
 - ◇有識者による講評



合宿2日目大学内でのグループワークの様子

有識者氏名（所属等）	1日目
片山雅大氏（株式会社MELZ代表取締役）	広島
小林希氏（旅作家，Officeひるねこ代表）	広島
加藤琢二氏（加藤汽船株式会社代表取締役社長）	本島
小西智都子氏（株式会社SETOUCHI SEAWIND代表取締役）	本島

香川大学大学院地域マネジメント研究科 2020年本島・広島合宿の島民へのフィードバック

【広島】		【本島】			
日時：	2020年11月22日（日）	13:00～15:00	日時：	2020年11月23日（月・祝）	13:00～15:00
場所：	広島市民センター		場所：	本島市民センター	
11月22日 (日)	広島	出席者：香川大学、島民ほか ◆香川大学：原研究科長、関副研究科長 西村（瀬戸内海食ラボ） ◆本四高速：山本常務ほか ◆協力パートナー：小林希 (株)OFFICE ひるねこ代表 (一社)日本旅客船協会「船旅アンバサダー」	11月23日 (月・祝)	本島	出席者：香川大学、島民ほか ◆香川大学：原研究科長、佐藤准教授 西村（瀬戸内海食ラボ） ◆本四高速：山本常務ほか ◆協力パートナー：小林希 (株)OFFICE ひるねこ代表 (一社)日本旅客船協会「船旅アンバサダー」
11:10	丸亀港発	◆香川大学大学院	12:10	丸亀港発	◆香川大学大学院
11:32	広島江の浦港着	地域マネジメント研究科	12:30	本島港着	地域マネジメント研究科
	⇒会場：広島市民センター	学生7名		⇒会場：本島市民センター	学生5名
12:00	昼食	◆島民の方	13:00	香川大学プレゼン・意見交換会	◆島民の方
13:00	香川大学プレゼン・意見交換会	平井明 連合自治会長/NPO石の里会長 筒井政人 青木石材協同組合参事 山本一博 青木自治会長 山本典昭 竹細工職人 東末男 山のガイド 上野孝雄 山のガイド		〈挨拶〉 山本常務 原研究科長	信原清 史跡塩飽勤番所顕彰保存会会長 三宅邦夫 丸亀観光大使 三好祥晃 正覚院副住職
	〈挨拶〉 山本常務 原研究科長	平井光子 島案内人 横瀬通子 島案内人 三野道子 島案内人 平井末子 島案内人		〈挨拶〉 山本常務 原研究科長	
13:10	〈プレゼン・Q&A・意見交換〉		13:10	〈プレゼン・Q&A・意見交換・〉	
	○広島A班プレゼン Q&A－意見交換			○本島A班プレゼン Q&A－意見交換	
	○広島B班プレゼン Q&A－意見交換			○本島B班プレゼン Q&A－意見交換	
14:40	<総評～今後に向けて～>		14:40	<総評～今後に向けて～>	
	住民代表コメント 小林氏コメント 山本常務コメント 原研究科長コメント			住民代表コメント 小林氏コメント 山本常務コメント 原研究科長コメント	
15:00	休憩		15:00	休憩	
15:10	フィールドワーク		15:10	フィールドワーク	
17:25	江の浦港発	広島の方々	17:10	本島港発	本島の方々
18:10	丸亀港着		17:40	丸亀港着	



広島の方々



本島の方々

本島を次世代へ

—持続可能な観光業を視野に、
教育の場を切り口に—

調査日：2020年9月19日

香川大学大学院 地域マネジメント研究科

伊丹、榎、嶋田、田淵、中川、山下



「本島をなんとかしたい…」

本島に関する基礎データ



15年間で 人口が半減

平成12年：768人

平成27年：396人

出典：さぬき瀬戸しまネッ島一香川県

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/chiiki/se-to-island/statistics/>



高齢化率の推移

平成12年：45.4%
平成27年：59.8%

出典：さぬき瀬戸しまネッ島一香川県
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/chiiki/seto-island/statistics/>



産業分類別 就業者率

第1次産業：38.1%
第2次産業：6.6%
第3次産業：54.8%
分類不能：0.5%

出典：さぬき瀬戸しまネッ島一香川県
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/chiiki/seto-island/statistics/>

現状

—外からの視点—

調査日 : 2020年9月19日

調査場所 : 本島

調査行程 :

1. 木鳥神社、千歳座
2. 塩飽勤番所
3. 両墓制
4. 笠島集落 (吉田邸)
5. 正覚院

調査員 (本島A班) :

社会人大学院生 6名

(内訳) 男性3名、女性3名





ガイドから 価値を知る

秀吉以来、
自治権を安堵されていた
人名制度の中心島。

歴史、文化財の宝庫。



観光客目線で観察した結果

【島の玄関口】

- ・フェリー乗り場が殺風景
- ・観光案内がわからない

【設備】

- ・歴史的な場所が整備されていない箇所がある
- ・正覚院の建物の老朽化が進み、崩壊している
- ・歴史的な場所が整備されていない箇所がある

【仕組み】

- ・ガイド不要でも、価値がわかる仕組み作りが必要
- ・現地でのナビがない（場所がわからない）
- ・観光客のゴミ回収対策は十分か？

【楽しみ】

- ・お土産を買う場所がなかった

ハード面で観光客を迎える体制が
まだ十分に整っていない

大学院生と島民との 意見交換を通して感じたこと

- ・本島の将来を考え、行動されている島民の方々の意志が伝わってきた
- ・一方で、島民同士の意思疎通、意見調整の難しさが見受けられた
- ・多くの島民の方々が観光客を受け入れる体制、心境になっているのだろうか？

島民のソフト面に対する
配慮も必要では？





- ・ 島内での移動がレンタサイクルが前提となると、小さい子供連れの家族連れではいけない！
- ・ 観光客気分で正覚院はいけない！
せめて自動車がないと正直行く気にならない！
- ・ ガイドの説明がないと塩飽大工の優れていることなどの島の魅力がわからない！ある意味ガイド頼み！
- ・ 香川県内でも塩飽水軍や本島の歴史を知らない人がいる現状。
- ・ 塩飽水軍や塩飽大工の良さがわからないと、単なる写真スポットで訪れる観光地になりえる。
- ・ 観光客がお金を使う箇所が少ないので、本格的な観光業も視野にいれるなら、現状だと島の収益としては低いのでは？
- ・ 主なターゲットは日帰り観光客？宿泊客？

観光客のターゲットが曖昧

優先的に取り組むべき課題

1. 観光地としての受け入れ体制が整っていない (ハード面でも、島民のソフト面でも)

- ・ 島民の気持ちや意見も考慮に入れていかないと長期的に本島を守れない
- ・ 「島民以外を受け入れて、気持ちがよかった」と島民の小さな成功体験の積み重ねが必要



2. 塩飽、本島の全国的な認知度が低い

- ・ 本島の真価がわかるためには、特定の教養や興味が必要
- ・ 優先的に真価がわかる人達に本島を売り込む

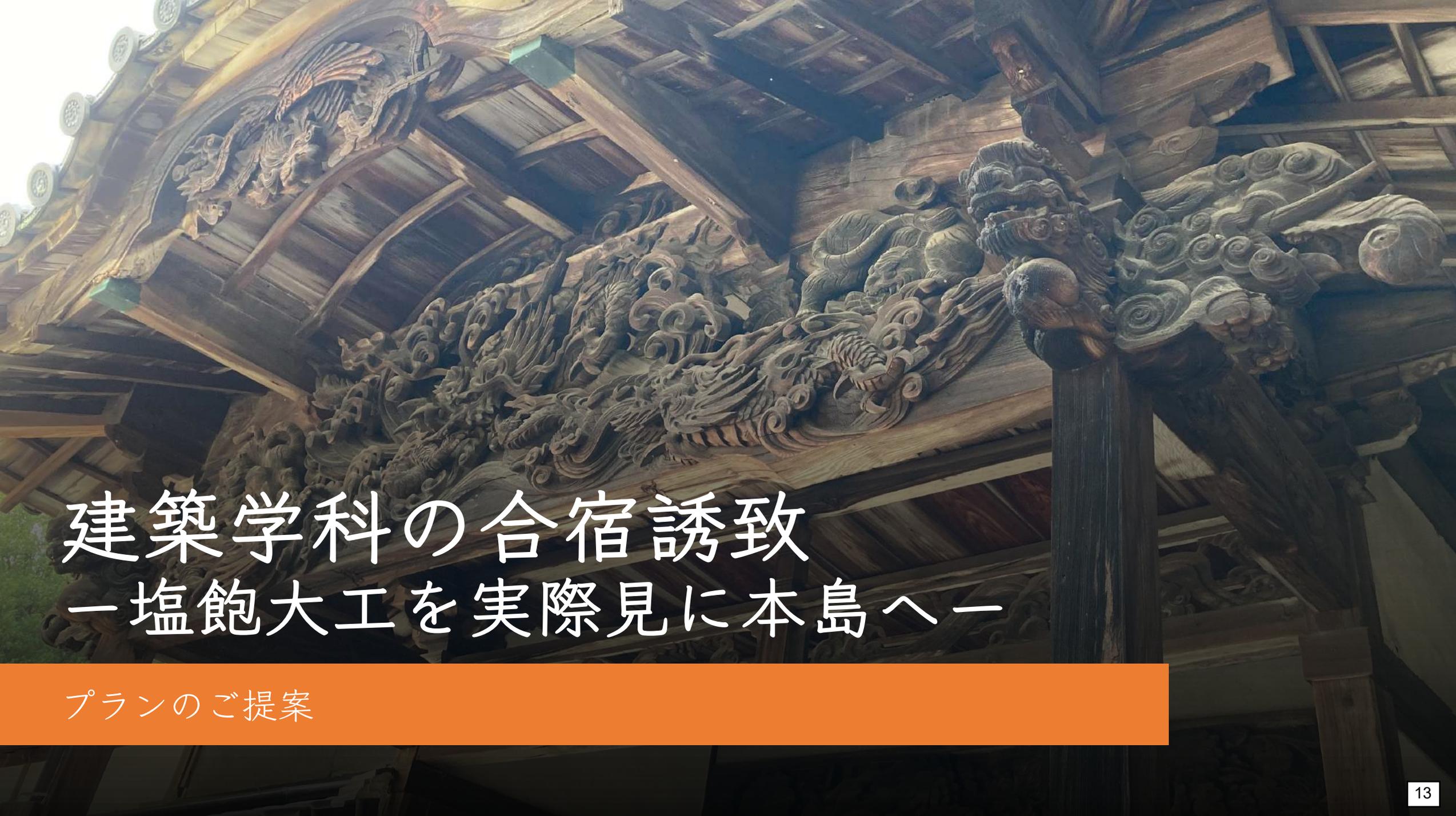


ターゲット候補（次点）

- 独身の歴史好きの女性（歴女）
- 退職後のアクティブシニア

【検討結果】

- 個人客が中心なので、広告費などの高いコストが必要
- 2020-2021年時期だと、「選択と集中」が必要



建築学科の合宿誘致 —塩飽大工を实际見に本島へ—

プランのご提案



目的 一学生用一

1. 現存する塩飽大工を間近で見て、
今後の勉学に活かす
2. 人口減、過疎化により、
文化財継承に課題が生じていることを
肌で感じる
3. 島での体験や島民との意見交換から、
自らの考えを発言、発信する

目的 一島民用一

1. 島民以外の人と触れう機会を通し、
外部からの本島の生の評価を把握する
2. 島民以外の人を本格的に観光業として
受け入れる想定および体験を通して、
島民自らが現状の課題と今後の課題を
把握する
3. 合宿誘致を通し、島民同士の
当課題に対する意見交換を活発にし、
「共創する」きっかけにする





2泊3日合宿プラン

1日目

午前：本島へ移動

午後：本島の歴史、塩飽大工の説明

- ・ガイド付き
- ・保存地区を中心に

2日目

午前：オプションを選択

午後：自由行動

3日目

午前：島民との意見交換、振り返り

- ・正覚院にて実施
- ・正覚院の境内見学も含む

午後：帰路へ



2日目のオプション候補例

テーマは

「学生が主体的に本島を楽しむ！」

以下のオプション案を用意！

- ① もっと知りたい！塩飽大工の歴史探索コース
- ② 正覚院副住職直伝！仏教修行体験コース
- ③ 塩飽大工といえば船！漁船に乗船コース
- ④ お宝の宝庫！吉田邸で文化財見学コース

費用の積算

※京阪神地域から20名の
 建築やデザイン専攻の学生を想定。
 京阪神⇔高松までバス、高松⇔本島まで船。
 2泊3日として積算。

	理想の設定金額		実際（求められる金額）		備考
	単価	計算（円）	単価	計算（円）	
高松⇔京阪神の交通費	7,000円／往復	7,000	7,000円／往復	7,000	高速バス往復で積算、ディスカウント不可？
船代（高松⇔本島往復）	10,000円／往復	10,000	2,000円／往復	2,000	（理想）船を200,000円・20人乗りチャーターで積算 （実際）理想より大幅減額
宿泊費	10,000円／泊	20,000	3,000円／泊	6,000	（実際）大学生ということを考慮し安価に設定
寺でのオプション費用（座禅など）	5,000円	5,000	5,000円	5,000	座禅やお茶の費用
レンタサイクル料	1,000円／日	2,000	1,000円／日	2,000	2日間レンタルとする
島内ガイド料	10,000円／日	1,000	10,000円／日	1,000	日当1万円、20人相手に2日拘束で積算
合計	—	45,000	—	23,000	

全国の建築学科
—大学と専門学校—

2020年9月調べ

大学

全121校

内訳（国立：36 公立：9 私立：76）

専門学校

全62校

参考 <https://www.gakkou.net/daigaku/src/?srcmode=gkm&gkm=04007>
<https://www.gakkou.net/sen/kensaku/list/?srcmode=mgkw&mgkw=10203>

弱みを強みに

1. 本島の認知度が低い

→学生にとって、知らない情報を知る方が価値があるかもしれない

2. 地図がない

→・学生にとって、迷うという経験すら楽しみに変えられる

・学生にとって、迷う経験が思い出の土地に、印象に残る旅に

3. 正覚院の修繕が必要

→ 学生にとって、リアルな地方の課題、現状も学ぶ機会になる

4. 島民が観光に慣れていない

→・島民は来島者が建築学科学生だと把握したうえで対応可能

・島民は学生を新鮮な気持ちで迎え入れようとする可能性が高い

5. 本島の食事にインパクトがない

→・合宿の一環なので、豪華な料理は不要

・普段の島料理を提供し、島民以外の人の反応をみる機会





経験と対話を繰り返す

1. 中心は島民である

→ただし、島民同士だけでは解決できないこともある。

2. 島民以外の人にも巻き込み、共創する

→外部からの刺激を受けて、時代の変化に適応し続ける。

3. 体験する

→小さな成功体験、問題に直面する度に、
対話、情報共有を通して、未来の本島を創っていく。

4. 本島だけの問題ではない

→日本全国の地方で起きている問題である。

今後のイメージ

年	2020	2021	2022	2023	2024	2025
全国的行事		東京五輪				大阪万博
瀬戸内国際 芸術祭			開催年			開催年
建築学科 合宿誘致	準備	初年度実施	第2回目	第3回目	第4回目	
観光学科 合宿誘致			初年度実施	第2回目	第3回目	
史学科 合宿誘致				初年度実施	第2回目	
国内観光客へ PR			実施開始予定			
国外観光客へ PR				実施開始予定		

本島の強み

【歴史】

- ・ 戦国時代の圧倒的な事実、歴史
- ・ 近代海運との重要な関わり
- ・ 塩飽大工の美しい街並み

【立地】

- ・ 本島からの開放的な瀬戸内海の景観

【人】

- ・ 塩飽大工に魅了されている人がいる事実
- ・ 熱心な島民が本島の将来を考えて行動している事実

コロナ禍の影響、外的変化が激しい時代。

島民だけでなく

本島に魅了された人も考えて行動する時では？



塩飽大工の物語を日本中へ、世界中へ
本島を未来の世代へ
実現可能、持続可能な方法で

ご清聴ありがとうございました

【参考資料】

全国の建築学科
—大学と専門学校—

地域	都道府県	件数
北海道	北海道	4
	青森	1
東北	秋田	0
	岩手	0
	宮城	3
	山形	2
	福島	0
関東	栃木	2
	群馬	2
	茨城	1
首都圏	東京	8
	埼玉	1
	千葉	1
	神奈川	3
甲信越	新潟	3
	山形	0
	長野	0
北陸	富山	2
	石川	1
	福井	0
東海	静岡	5
	愛知	2
	三重	0
	岐阜	1
近畿	滋賀	0
	京都	2
	大坂	5
	奈良	0
	和歌山	0
中国	兵庫	1
	岡山	2
	広島	2
	山口	0
	鳥取	0
四国	島根	0
	徳島	0
	香川	0
	愛媛	0
九州	高知	0
	福岡	2
	佐賀	0
	長崎	0
	熊本	2
	大分	0
	宮崎	0
鹿児島	1	
沖縄	沖縄	3

専門学校

地域	都道府県	件数
北海道	北海道	5
	青森	1
東北	秋田	1
	岩手	0
	宮城	4
	山形	2
	福島	2
関東	栃木	2
	群馬	1
首都圏	茨城	1
	東京	20
	埼玉	3
	千葉	5
甲信越	神奈川	6
	新潟	4
	山形	0
北陸	長野	1
	富山	1
	石川	1
東海	福井	2
	静岡	2
	愛知	9
	三重	1
近畿	岐阜	0
	滋賀	0
	京都	6
	大坂	10
	奈良	2
	和歌山	0
中国	兵庫	4
	岡山	2
	広島	4
	山口	1
	鳥取	0
四国	島根	1
	徳島	2
	香川	1
	愛媛	0
九州	高知	1
	福岡	7
	佐賀	1
	長崎	2
	熊本	2
	大分	2
	宮崎	0
鹿児島	2	
沖縄	沖縄	

大学

「塩飽諸島の魅力と 観光化のための提言」

1. 塩飽諸島の魅力
2. 塩飽諸島 観光化への提言
3. 観光化を促す食を設計する
4. プロモーション戦略

合宿_本島_B班

高橋寛栄、多田羅啓介、中條祐輔、福井麻紀、眞鍋一弘、渡辺敏彦

1. 塩飽諸島の魅力

与島

～瀬戸大橋を背に塩飽諸島を一望できる絶景スポット～



『人名』組織

与島は本島の笠島・泊地区と併せ
現存する三か所のうちのひとつ



『与島PA』

- ・Uターン利用できる
- ・第二駐車場が存在
- ・釣りスポットとしても人気
- ・アンパンマントロッコ手振り
- ・登頂ツアーの起点



『備讃瀬戸航路』今も昔も船舶交通の要所
幾多の島々 複雑な地形 潮流の速さ
備讃瀬戸航路と水島航路の分岐点

→ 【鍋島灯台】

明治5年から灯る石造りの貴重な灯台
防波堤で陸続きになっている



1. 塩飽諸島の魅力

本島



レンタサイクルで巡る瀬戸内海の魅力

瀬戸大橋と瀬戸内海のコラボレーション
→ 抜群の景観

瀬戸内海の風を感じ駆け抜ける疾走感
→ アウトドア、レジャー体験

千年の歴史や古い町並み、島民の生活の様子
→ 悠久の歴史とロマンに
思いを馳せながらリフレッシュ

ほどよい疲労感

屋外でのランチ・弁当（ピクニック）
そしてビールへ・・・
～おいしい食事と瀬戸内の夕日を見ながら～



1. 塩飽諸島の魅力 本島 木鳥神社・千歳座



航海の安全を祈る心から木鳥神社は海の側に建てられている。入口の鳥居は、上部の笠木の両端が丸く盛り上がった独特の型をしており、下木は5cmほどの厚み、柱は下になるほど太くなっている。また、台石がなく深く掘って埋められている。1627年、宮本半右衛門が寄進したと刻字されてあった。



制札場

江戸時代に塩飽勤番所から出されたお触書や掟などを掲示し住民に周知させた場所。島内に3か所現存しているがこの制札場が一番大きい。



千歳座

1862年に建てられた芝居小屋。全国でも貴重な舞台30の一つに数えられる。庶民は遊芸を楽しむことを禁じられていた時代、神社の道具納屋と言う名目で建てられた。大阪町奉行の支配下にあった島の役人たちは、大阪に行く機会が多くまた、廻船業や大工職として上方の演芸に接する機会があったので自分たちで常設の芝居小屋を建て芝居を楽しんでいた。8mの廻り舞台と奈落、舞台のしたで駒を数か所設置して回す仕組みになっている。天井は、竹を格子状に組んだ「ぶどう棚」、突き出し舞台になる「板戸」（ぶちょう）などの本格的な造りになっている。屋外に花道をつけ、境内が観客席になる、全国的にも数少ない芝居小屋。近年では平成元年、こけら落としをし芝居をした。千歳座は、部落の文化財となっている。



本殿は1674年に再建されたものではあるが、塩飽大工の高度な技術が見られる彫刻が、様々な場所に見られる。

1. 塩飽諸島の魅力 本島 塩飽勤番所

- 塩飽勤番所は国指定史跡であり、通常では見られないゆるやかなカーブを描く、重厚な勤番所の佇まいは印象的であった。
- 塩飽本島は塩飽諸島の海上輸送の船方として、大名でも小名でもない、人名と呼ばれる独特な自治制度が許されていた。
- 650人の船方は4人の年寄により管理されていたが、後に島治改革により、入り札で選ばれた3人の年寄により政務が行われていた。
- 勤番所跡は、1972年まで丸亀市役所の本島支所として使われており、現在は織田信長や、豊臣秀吉の朱印状をはじめとする、文化財の展示館として公開されている。
- 建物は自治区として機能していた牢の跡や、幕府の船方として大切にされていたことを物語る様々な文化財、さらには咸臨丸の乗組員の半数が塩飽水軍出身であったこと等、常に本島が日本の歴史の本流に関わっていたことを伺わせる文化財が満載であり、すばらしい観光資源である。



1. 塩飽諸島の魅力 本島 正覚院

- 本島の真ん中。『山寺』
天平年間（729～748年）歴史的、真言宗醍醐派の寺院。
丸亀市内では最も歴史が古い。国の重要文化財、市の文化財。

『港より徒歩40分坂道あり』。

レンタサイクルか車。近づくほど勾配はきつく、厳しい。
体力を過信したり電動自転車だからひっくり返ったり、
途中リタイヤの危険性道のり自体が修行。
空の心に、真言の力。パワースポットに到着。

- 副住職、三好祥晃(よしあき)氏。本島の活性化。
頂上展望台。雪駄で山道。若さと修行の力
畳に座りトークイベント。
有識者(加藤様、小西様)、市職員、地元代表（三宅氏、信原氏）三好副住職
教員と学生たち、活発な意見が飛び交う話し合いの場
詳細は、デスクッションやプレゼンテーションなどで



1. 塩飽諸島の魅力 本島 笠島地区

笠島の町並みの魅力

- 笠島集落は、塩飽水軍の造船技術の流れを汲む、塩飽大工が手掛けた、江戸から明治の貴重な建築群が保存されている。
- 島であったおかげで戦火を免れ、その時代にタイムスリップしたような佇まいを見せる。漆喰塗りのなまこ壁や千本格子窓等、塩飽大工が競い合った技を見ることが出来る。



1. 塩飽諸島の魅力 本島 笠島地区

歴史の文化の香り漂う吉田邸

- 吉田邸はその集落の中心にあり、100年を超える建物に入ると、悠久に流れるときが、江戸から明治へと変わりゆく時代で止まってしまったかのような感がある。建物は塩飽大工による、刀のつばをはめ込んだ欄間や、「ちり落とし」の細工、節のない12mの杉の丸太材等、技術の粋を伺うことが出来る。
- また、納戸蔵に所蔵されていた、伊藤若冲や丸山応挙の絵画も展示されており、様々な文化財と共に、ここにも、塩飽本島の歴史の一端を伺うことが出来る。



- また、納戸蔵に所蔵されていた、伊藤若冲や丸山応挙の絵画も展示されており、様々な文化財と共に、ここにも、塩飽本島の歴史の一端を伺うことが出来る。



2. 塩飽諸島 観光化への提言

本島の魅力

歴史

塩飽水軍、塩飽大工、人名制、咸臨丸、朱印状、千歳座、両墓性・・・

千年のときの流れの中で、常に時代の中心で歴史を刻んできた塩飽本島。

この**歴史そのものが、他の島との最大の差別化要因**である。

歴史の遺産、文化遺産・建造物、千歳座、塩飽勤番所、笠島まち並み保存地区、吉田邸・・・
本島の魅力である歴史に裏付けられ、島だからこそ、無傷で残された、様々な文化遺産や建造物も本島の魅力を更に引き立てている。

特に笠島地区はまるで、江戸から大正の時代にスリップしたような錯覚を覚えさせる街並みが保存されており、吉田邸の和風建築の佇まいは特筆に値するものがある。

また、塩飽真言宗寺院の大本山であった正覚院は、奈良東大寺より古い1300年近い歴史と、修行の場であったことを彷彿させる陰しさが、ここがまぎれもないパワースポットであることを実感させる。

**しかし、このような本島の魅力だけで、
観光客を呼べるのか？**

答えは「No!」である。

2. 塩飽諸島 観光化への提言

本島に足りないものは何か？

案内者（三宅氏、信原氏）および有識者の方々と様々な意見交換を行った。
以下は、意見交換の中で出てきた、本島に現状であり、「本島に足りないもの」のリストである。

- 移住者は、島民との折り合いの問題もあり、これまでうまくいっていない。
- 過去には様々なイベントも開催したが、継続性がなく尻すぼみになっている。
- 観光案内にしても、3年ほどやったが閉鎖された。人も足りない。
- 人口が減り、中学校も閉鎖された。
- 地域活性化の補助金申請？もしたが却下された。他でうまくいった事例を見ていると、あの時もっと頑張っておけばよかったと思う。
- 歴史も自然も景色も良いが食が無い。
- 食材で名物といえるのはタイラギとタコ。しかし、島には食堂をやるような若い人材がいない。
- 以前はわかめの養殖をやっていたが、これもやめてしまった（収益、人）。
- このような素晴らしい歴史があるにも関わらず、地元である丸亀市でもほとんど知られていない。

観光を展開する人がいない。

観光に必須の食を展開する人がいない。

素晴らしい歴史を知らせる手立てがない。

2. 塩飽諸島 観光化への提言

観光化と共に解決しなければならない、本当の問題はなにか？

案内者、有識者のディスカッションの中で、本島の観光推進は、今回のお題である「観光コンテンツの開発」だけで解決する問題では無いと感じた。また、地元にも、観光化を推し進める熱意のようなものを感じることが出来なかった。

本当の課題

- 過疎化が進む島で、過疎化をどのように対策するか？
- そのうえでどの様に、観光を担う人材を確保するか？
- 本島の魅力をどの様に世の中に伝えていくのか？
- これらの課題を解決するための様々な施策を展開するリーダーは誰か？

島名	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
本島	768人	605人	492人	396人

出所：離島統計情報

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/chiiki/seto-island/statistics/>

上記のような本当の課題に取り組んだうえで、初めてそこで「観光コンテンツの開発」が実効性を持つ。そもそも、本島は観光資源の宝庫である。実施体制が整いさえすれば、様々な有効な観光コンテンツ開発が可能になる。

過疎化対策
移住、Uターンの受入体制
地元の熱意とリーダー

2. 塩飽諸島 観光化への提言

過疎の問題

過疎の問題に関しては、神山町のアプローチが参考になる。
以下、神山プロジェクトの資料からの引用である。

創造的過疎(Creative Depopulation)とは？

過疎化の現状を受け入れ、数ではなく**過疎の中身を改善**する。外部から若者やクリエイティブ人材を誘致することによって、**人口構成の健全化**を図るとともに、ICTインフラ等を活用し、**多様な働き方を実現できるビジネスの場**としての価値を高めることによって、農林漁業のみに頼らない、均衡のとれた、持続可能な地域を目指す。

観光を担う人材

本島に担う人材はいないのだから、移住やUターンを促進するしかない。
過疎問題の対策の中で解決させる。たとえば、移住環境の整備、島を挙げてのサポート体制、リモートワークのインフラ整備、等々。

リーダーは誰か？

本島の観光化を進めるのであれば、地元が熱意をもって進めるためのリーダーと体制が必要。
例えば、三好副住職が経歴と若さから候補になる。しかし、観光事業の経験は無く、リーダーとしてすべてを担えるかどうかは未知数。例えば、三豊市で行われた地域商社の公募のようなアプローチで、リーダーを支える展開を考える必要があるのではないか。

2. 塩飽諸島 観光化への提言

食をデザインする

- 今回の本島の観光化の議論の中で、観光には食が必須であるということがわかった。
- 観光化に食が必須であるという判断であれば、食を作るしかない。
- タイラギとタコをメインに、瀬戸内の食材を使ったレストランを企画する。
- 有名なシェフを招聘し、瀬戸内の食材を使った料理へのアプローチを実施する。
- 和食、フレンチ、イタリアン、いずれでもOK（ストーリーが必要）。
- レストラン設置のためにシェフを移住を前提として公募する。
- レストランがビジネスとして成立するための観光企画（観光コンテンツ）、プロモーション等が必要。成立するまで補助が必要。

2. 塩飽諸島 観光化への提言

何をするか、どこからするか、どうやって継続させるか

- ① 島の過疎化を止めるための**島民のムーブメント**を作る。
- ② リーダー（シンボル）は**三好副住職**。
- ③ リーダーを支える**地域商社**、プロデューサを公募する。
- ④ 島の過疎化を止めるためには、移住、Uターンによる**年齢構成の適正化**が必須。
- ⑤ 移住者が生活できる**環境**を提供する。
 - i. 仕事そのもの（リモートワーク、観光化による地域ビジネス/レストラン）
 - ii. 環境（ネット環境、オフィス環境、住居環境、島民の理解・コミュニケーション）
- ⑥ 塩飽本島の観光資源を生かすための核として、**塩飽本島の食を設計**する。
- ⑦ 食の設計の下での移住者によるレストラン、喫茶等の設置は必須。
- ⑧ （ある程度知名度が上がり集客の可能性の下で）**観光コンテンツ**を設計する
- ⑨ やめてしまった様々な**企画や、技術の復活**へのアプローチ
 - i. わかめやエビの養殖
 - ii. 塩飽大工の技術の復刻
 - iii. 正覚院夏祭りのイベント化

3. 観光化を促す食を設計する

塩飽諸島の歴史や文化財を背景とした「食」を設計する。
「食」を中心に周遊、映像で観光化を促す。

- 狙い
- 情報発信** : 話題性があり、インパクトのある「食」の企画をネットで発信
 - 知名度向上** : 「食」を通じて、塩飽本島を広く知ってもらう。
「食」を通じて、塩飽本島ファンを作る。
 - 人の交流** : ファンを中心に塩飽本島に人が集まるきっかけを作る。

企画内容

①創作「塩飽水軍料理」を目玉とした超高級ディナーパッケージ

食

- ・香川漆器と塩飽水軍料理のディナー
- ・塩飽水軍ツアー（塩飽諸島周遊観光）
- ・費用は10万円～。

周

②本島笹島地区の旧真木邸、藤井邸を舞台とした映像ディナーショー

映

塩飽諸島の歴史、文化を映像で綴り、瀬戸内の食材を映像で紹介し、その場で食べてもらう。
コンテンツとエンターテナー性をどう持たせるかがポイント
地元のタレントが必要

課題として 宿泊施設、調理設備
牛島の宿泊施設や、与島フードコートが利用できるかも

3. 観光化を促す食を設計する



①創作「塩飽水軍料理」を目玉とした超高級ディナーパッケージ

コンセプト

江戸時代末期、とぎが止った吉田邸。

塩飽諸島の文化遺産と絵画に囲まれ、至高の「塩飽水軍料理」を戴く
傾けた杯には一幅の絵画のような枯山水が映る。



3. 観光化を促す食を設計する

吉田邸で提供する超高級料理



『本島の海鮮・香川の食材』

塩飽水軍も食したであろう
本島の海鮮と香川の食材。
これらを「**香川漆器**」に贅沢に
盛り付けた創作「**塩飽水軍料理**」を
塩飽諸島観光の目玉としてデザイン。



監修は香川の食に詳しい
丸の内ホテル 山口総料理長



「香川漆器」

3. 観光化を促す食を設計する



②本島笹島地区の旧真木邸、藤井邸を舞台とした映像ディナーショー

食事をエンターテイメントに



『お品書き』

生産者やその作業風景を映像を食事の際に流す
自分が食べている食事がどのような場所でどのよ
うな人が育てたものかが分かるとより美味しい。

塩飽の歴史を背景とした、美しい本島の景色や名所・人
物も食事のメニューの映像の合間に盛り込んでいく



4. プロモーション戦略



プロモーション戦略 周遊観光の可能性

- 各島に観光コンテンツはあるが・・・
→現状：一日を一島で過ごすには無理がある

①各島の魅力【**まずはあるもので!**】始めてみては？

- 観光→「観」「食」「体験」「泊」「土産」・・・
いきなり小さな島に全部求めんでえんちゃう？
予算、維持・継続力、労働力、建設期間
なにより島民の理解なくして持続し得ない



各島にテーマを与えるなら...

与島	「食」	: PAとして整備「土産」もばっちり
牛島	「泊」	: 宿泊施設
手島	「体験」	: 地引網
本島	「観」	: 歴史
広島	「体験」	: 採石

それぞれが特徴ある素晴らしい魅力



足りないものは**ある島に行けばいい**

～補完的關係～ 『塩飽郡の復活』

あえて目的動線を残しておく

→『各島の魅力を求める旅』に可能性
では、**旅の造成には?** →②へ

4. プロモーション戦略



プロモーション戦略 周遊観光の可能性

- ・各島に観光コンテンツはあるが・・・
→現状：一日を一島で過ごすには無理がある
①『各島の魅力を求める旅』としての可能性

②各島の魅力を【つなぐ】ためには？

- ・実際に他島を同日に訪れるためには・・・

【例】本島 & 広島 (日帰り)

丸亀 6:10 本島 6:45

本島 12:35 丸亀 13:05

丸亀 14:10 広島 14:31

広島 18:10 丸亀 18:31

※日帰りで広島以遠や3島以上行く場合本島9:40に乗船
実質3島以上の観光は出来ない・・・



定期就航航路



本島汽船

本島・牛島航路



備讃フェリー

広島・小手島・手島航路

目前の島に関わらず一度丸亀に帰港しなければならない
→周遊観光確立には大きな『障壁』

4. プロモーション戦略



そこで・・・「塩飽諸島周遊航路」の確立



4. プロモーション戦略



プロモーション戦略 周遊観光の可能性 ～「塩飽諸島周遊航路」の確立～

2つのテーマ

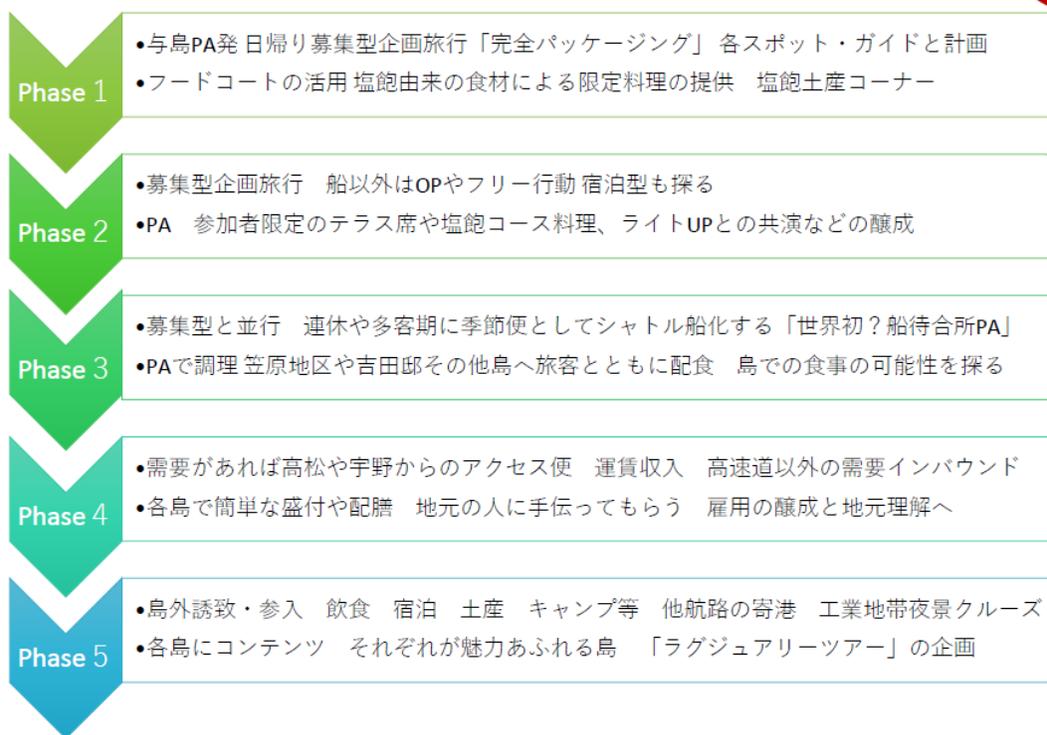
- ①各島の魅力 **【まずはあるもの】**を
- ②各島の魅力 **【つなぐ】**こと

⇒与島を起点とした塩飽諸島周遊航路の確立
フェーズを踏んだ**観光機会造成と島民参画**

⇒与島PAを単なる休憩島ではなく**交通の結節点**に
塩飽諸島観光の起点「**船の待合所**」

⇒各島の役割をつなぐ
コンパクトCity = **塩飽コンパクトIslands**

⇒移動もサービスもすべてひとつにつなぐ
『観光型MaaS』 ICTを活用し手軽かつ戦略的誘客
インバウンド需要や次世代型観光を見越す



持続可能な周遊型塩飽諸島観光の確立

塩飽諸島島民交流の復活・活性化

4. プロモーション戦略 (参考)

参考：MaaS 移動を一つのサービスとして提供 シームレスに目的地観光へ

地域観光を手軽に ～モビリティ間連携～

- 独立したオペレーションの一元化
 - ・出発地～目的地まで「一発検索&予約・決済」
- 空からローカルモビリティまでシームレスに
 - ・乗り継ぎ、営業時間と連携したダイヤ

着地型観光への送客戦略 ～サービスの統合～

- 宿泊・飲食・入園料等も1アプリで便利でお得に
 - ・交通予約との連携クーポンでエリア囲い込み
- エリアパスやパッケージ化による誘客戦略
 - ・利便性向上のウラに戦略的送客を図った観光活性
- 顧客ニーズに応じた付加価値の醸成と搾取
 - ・各UPグレード、観光列車、エリア追加オプション

ICT活用と動態分析 ～デジタル化の恩恵～

- キャッシュレス、チケットレス化
 - ・双方の利便性向上と域内消費の可視化
- ビッグデータの活用
 - ・顧客、移動手段、行先、消費額等の傾向分析
- 戦略プラン、モビリティ連携の修正、深度化
 - ・更なる誘客活性、効率消費にむけた軌道修正



【観光型MaaSの役割】

- ◎利便性と効率化の推進
 - ・各モードの特性を活かした送客手段
 - ・時刻連携による相乗的顧客湧出
 - ・効率的移動による観光地消費増
- ◎アフターコロナの受け皿維持
 - ・交通、宿泊、観光、飲食等への戦略的送客
 - ・データ収集によるニーズ分析と深度化
- ◎グローバルな観光圏への発展性
 - ・アプリの多言語化推進
 - ・キャッシュレスによる利便性向上
- ◎各業界・事業者の連携
 - ・ビッグデータの共有
 - ・方向性の一致による更なる誘客活性化

【広島A班】 提案プラン

香川大学地域マネジメント研究科
2020.9.20

寺尾和馬、鈴江節子、井上洋、大美光代、篠原啓祐

島の現状



面積／11.72km²

人口／226人

主な産業／青木石、採石

本土からの距離／丸亀港から12.5km

広島	広島～丸亀	12.5km・40分	フェリー	4便／日
		12.5km・21分	旅客船	5便／日
手島	手島～丸亀	14.5km・30分	旅客船	1便／日
		26.3km・97分	フェリー	2便／日
小手島	小手島～丸亀	26.3km・55分	旅客船	1便／日
		21.3km・80分	フェリー	1.5便／日
		21.3km・45分	旅客船	1便／日

広島A班 2020.9.20

現地視察から見た 島の課題

高齢者福祉の維持 少子化 福祉
見守り 自治会運営 子育て世代ゼロ 空き家
情報発信不足 介護 地域産業の不足 防災
島民の高齢化 目的の共有 マンパワー不足

課題が多いことが最大の課題 = 担い手不足

**地域課題への対策なくして、
新たな取り組みは進められない**

現地視察から見た住民のホンネ

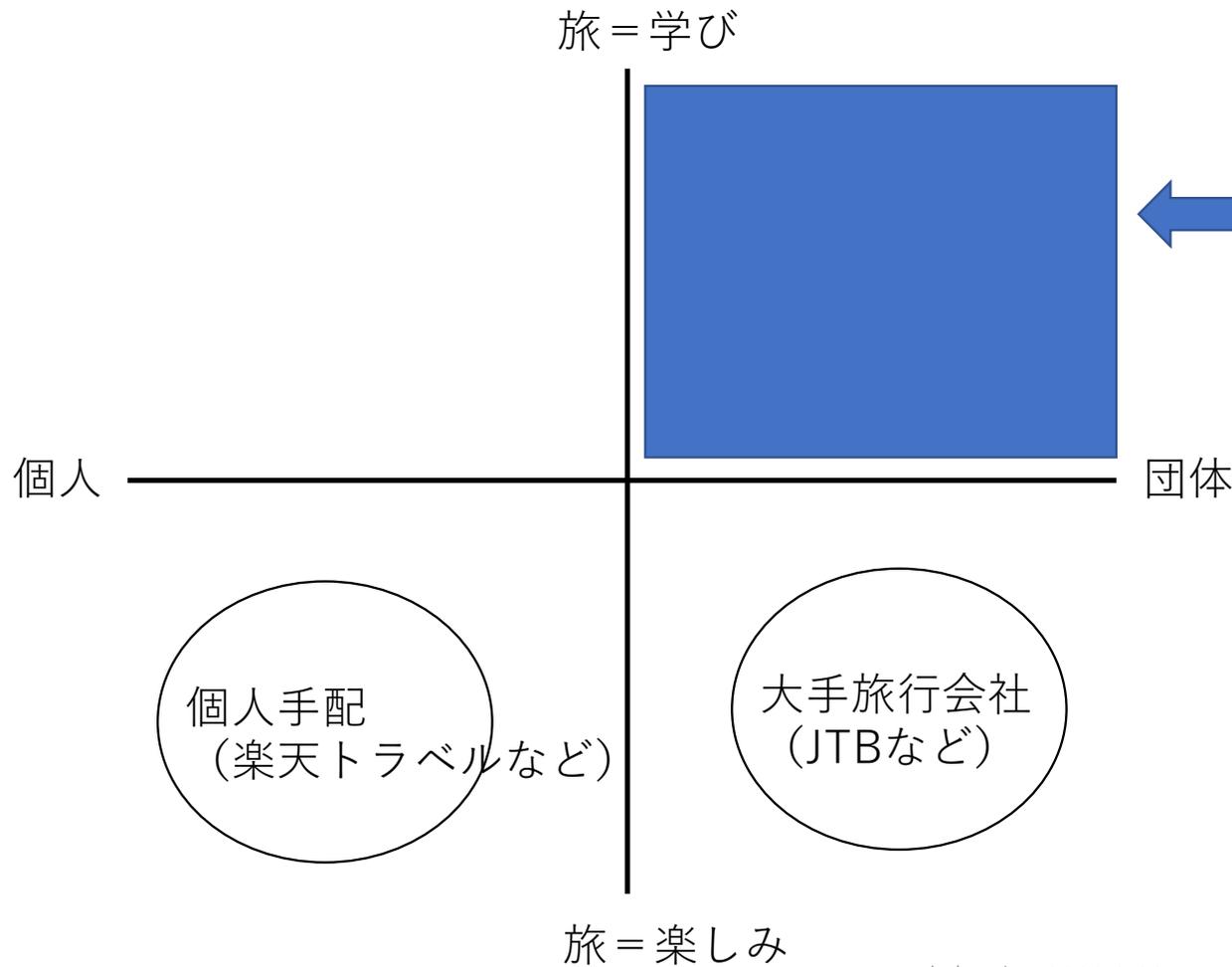
観光より**暮らしの維持**が最優先

観光の振興よりも、**交流**がしたい

■実際の声（自治会の皆さんとの意見交換会より）

- ✓ 高齢化、過疎化は深刻であり、暮らしの維持が最優先課題。島を上げて観光に力を入れると、逆に島民の不満足度が上がる可能性あり。（過去に実施したトライアスロンのトラウマ。マンパワーに問題。）
- ✓ 「交流」に関心（島の改善・活性化のアイデアが欲しいため）
- ✓ 島を「知って欲しい」「何とかしたい」という欲求は強い。
- ✓ ご自慢の「日本遺産に認定」がインターネットで検索してもヒットしないことに愕然。（マーケティング理論でいう、「AISASモデル」の最初のA・I・Sが弱いため、Actionにつながらない。）

ターゲットのポジショニング



いくつかの切り口はあるが、当チームでは、ここをターゲットとした2つのプランを提案します。

■提案プラン

1

一律の
入島料
を新設



※参加費は別途徴収

2

学び
に特化



広島A班 2020.9.20



①入島料を新設

■導入の背景

- ・島内で商店や産業ができて「個人の営利行為」と認識され、地域住民から反発を受けることがある。
- ・島にお金が落ちることは地域振興につながるが、具体的な目的が見えないと住民の理解は得づらい。
- ・住民の暮らしに「実感」を与えることが必要。

■設定金額 **1,000円／人**

■対象者 広島の住民とその家族を除く中学生以上の者

入島料は「ふれ愛の町ひろしまをつくる会」「広島校区連合自治会」「NPO法人石の里広島」のいずれかで管理。地域の暮らし改善を目的とする事業や島内設備の改修などに利用する。

例) 公衆トイレの設置、コミュニティバスの増便、デイケア施設の充実

※当初提案した、食事付きや交通費込みではなく、「入島するための費用」として徴収する。地域の現状と課題を伝え、地域の暮らしを支えるための寄付的な意味合いで支払ってもらう。宿泊や食事、交通費については実費。旅行プランを組む場合は、そのプラン内に組み込み、旅行会社が代行回収することも可能。



①入島料を新設

【実用案】

年間500人（10人/週）が広島に訪れると仮定

入島料@1,000円×500人 = **500,000円**

島内外の**交流促進**や、**暮らしの課題改善**に効果あり

(案1)

コミュニティバス乗り場にベンチを設置

約60,000円/1式

50万円で島内8か所に設置可能！



(案2)

高齢者宅（島内）の草刈りボランティア募集

ボランティア1人あたり費用 約5,000円

（内訳）丸亀港～江ノ浦港 往復運賃1,060円、有償ボランティア費用3,000円、入島料1,000円

50万円で100人分の有償ボランティア費用に！





①入島料を新設

■入島料を導入することで解決できる島の課題



島内で商店や産業ができて「個人の営利行為」と認識され、地域住民から反発を受けることがある。

→入島料は「**公益的な収入**」であるため**理解が得やすい**。



・島にお金が落ちることは地域振興につながるが、具体的な目的が見えないと住民の理解は得づらい。

・住民の暮らしに「実感」を与えることが必要。

→**社会資本（公共トイレ、食事処整備等）に回すことで、サステナブルな旅行商品となる。**



②学びに特化

■提案の背景

- ・事前に、若者が多く訪れてもらえるような提案をとの期待があったが、一般的な若者旅行者が好みそうな観光コンテンツは今のところ見当たらない。
- ・一般観光客の「楽しむ」視点より、今回の我々のような「学び」を目的とする方が顧客ニーズとしてありそう。
- ・昨今は、団体旅行→個人旅行に移行していると言われるが、来るか来ないかわからない個人旅行者のために、恒常的な受け入れ体制を整えるのは島内の状況としてもかなり厳しい。であれば、一定人数が担保できる団体予約客のみに特化した旅のニーズに応える方が現実的ではないか。



つまり……

個人旅行者ではなく、**小中高生の遠足や大人の学びに特化した団体向けスタディツアー**を販売する

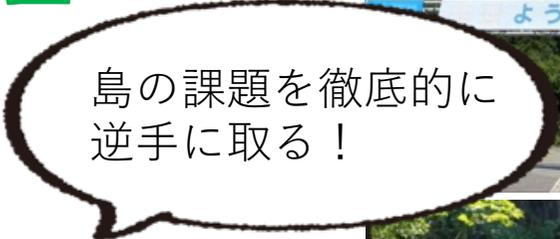


②学びに特化

「最先端」の島の姿から 地域の未来を考えるスタディツアー

広島が「最先端」である理由

- ・高齢化・人口減少による様々な課題を抱える、**島過疎の最先端**
- ・歴史ある石材産業の栄枯盛衰を事例に**過疎地産業を学べる最先端**
- ・再活性化に向けた様々な課題に取り組める、**フィールドワークの最先端**



島の課題を徹底的に
逆手に取る！



■対象者と提供価値の例

対象者	幼・小・中・高・大学生 <small>※丸亀市内の教育機関に対してモニタリングツアーを実施してはどうか？</small>	教育機関、医療福祉機関、一般企業、ボランティア団体	今後、高齢化を控える新興国
上記への提供価値	総合学習（社会科見学、宿泊学習、スポーツ合宿）	企業研修、人材開発研修、福祉体験、ボランティア	過疎地における福祉の現場視察

広島A班 2020.9.20



スタディツアーのコンテンツ

① 離島における**地域産業を学ぶ**

- ・ 石材業の栄枯盛衰から地場産業の未来を考える。
- ・ 梨農園の経営から農業の後継課題を考える。

■魅力ポイントはココ！

- ✓ 伝統技術が現存しており、今も景観が日々変化している。そびえ立つ岩壁は迫力もあって魅力的。
- ✓ 石材業については石割り体験を実施。島の思い出として持ち帰る。

可能人数 1回15人～20人

企画費 20,000円/回

実費 1人1,500円として、1回42,500～50,000円



② **環境を学ぶ**

- ・ 残念石の海岸から海ごみについて考える
- ・ 採石場の地質を学ぶ
- ・ 海岸清掃ボランティア活動体験

■魅力ポイントはココ！

- ✓ ボランティア活動体験ができる。
- ✓ 豊かな自然に癒やされる

可能人数 1回15人～20人

企画費 10,000円/回

実費 1人500円として、1回17,500～20,000円



広島A班 2020.9.20



スタディツアーのコンテンツ

③ 離島の**歴史文化**を学ぶ

- ・ 尾上邸の見学
- ・ 塩飽諸島の歴史語り

※尾上邸は、現在宿泊施設を目指してクラウドファンディングを実施している。しかし、宿泊施設ではなく飲食施設や資料館としての再建を提案する。仁尾町「松賀屋」の先行事例を参照。

■魅力ポイントはココ！

- ✓ 島同士がどうやって共存してきたのか、唯一無二の存在に触れる事ができる。

可能人数 1回15人～20人

企画費 10,000円/回

実費 1人800円として、1回22,000～26,000円



④ 離島における**地域の暮らし**の課題を学ぶ

- ・ 自治会運営の難しさを知り、持続可能な地域の暮らしを考える
- ・ 高齢福祉の現状や、空き家対策を考える
- ・ 地域住民との意見交換を通して、地域課題を考える

■魅力ポイントはココ！

- ✓ 島民とのふれあいから、生の声を聞くことができる
- ✓ 多彩な地域課題が溢れている

可能人数 1回15人～20人

企画費 10,000円/回

実費 1人800円として、1回22,000～26,000円



広島A班 2020.9.20



スタディツアーを可能にするための3つの視点

予算視点

児童・生徒の旅費の目安

29,000円~75,000円

出所：日本旅行業協会「令和2年度（2020年度）都道府県・政令指定都市 修学旅行実施基準概要一覧」より名古屋市の1泊2日の生徒一人当たりの旅費

従業員1人当たりの教育研修費用

34,607円

出所：産労総合研究所「2019年度 教育研修費用の実態調査」

コンテンツが多彩なため、
予算に合わせた商品提案が可能

教育視点

文部科学省が推進する学習要領を「離島」を通じて、学びの実践機会とする。

<https://manabi-mirai.mext.go.jp/>

過疎の現実に向き合うことで、地域活性化に対して、学びの視点が高度化する。また、自然との触れ合いのなかで、ゲーム等の生活環境から離れ、思考を深める機会を創出する。

教育現場のニーズに見合った
商品提案が可能

行政視点

離島振興計画「塩飽諸島地域振興計画」を推進する。

<https://www.city.marugame.lg.jp/itwinfo/i35045/file/keikaku.pdf>

海岸線の漂流物（ごみ）をテーマにした環境学習なども計画されているが、計画通りに十分に実施されているとは言い難い。専門的かつ意欲のある島外の人材を引き込むことで計画を推進する。

行政ミッションに見合った
商品提案が可能



スタディツアー実施に向けた課題点

食 事

食事処がない。
現状、島外から弁当を持ち込む
ことで対応。



■解決のための一策 尾上邸のレストラン化

尾上邸は、現在宿泊施設への改築を目指してクラウドファンディングによる資金調達を実施しているが、目標金額500万円に対して、視察日時点で58.7万円しか集まっておらず状況はかなり厳しい。また、仮に宿泊施設として整備しても、宿泊施設として建物を維持管理することは予算、人材の両面からかなり困難である。であれば、レストランとして食事提供に路線変更してはどうか。



交通手段

丸亀港からの定期便のみ。
交通アクセスがやや不便。

広島	広島～丸亀	12.5km・40分	フェリー	4便/日
		12.5km・21分	旅客船	5便/日
手島	手島～丸亀	26.3km・97分	フェリー	2便/日
		26.3km・55分	旅客船	1便/日
小手島	小手島～丸亀	21.3km・80分	フェリー	1.5便/日
		21.3km・45分	旅客船	1便/日

■解決のための一策 団体発着は与島からのチャーター便で

生活航路としては十分な役割を果たしている定期便であるが、団体客を迎え入れるとなると、やや不便さを感じる。特に、主要交通が集中している高松港周辺とのアクセスが悪い。高松港からのチャーター便でももちろん輸送は可能だが、普段から客船に乗りなれていない人にとっては、小型船で1時間を超える船旅はややストレスである。団体の発着は与島を推奨し、与島からの瀬戸内の眺めも楽しんでもらい、土産物の購入など買い物も楽しんでもらってはどうか。



スタディツアープランの波及効果

- ✓ 地域の課題をそのままコンテンツにすることで、**住民の負担は最小限**に。
- ✓ 「学び」という目的を持った人たちを受け入れることで、**地域の課題解決**につなげる。
- ✓ 地域の現状を知ってもらう**PR**にもなる。
- ✓ 地域の中でも切実である高齢者ケアの課題も、島外の旅行者とのふれあいが生まれることで、**高齢者の小さな楽しみや生きがい**につながる。

島内への効果

- ・コミュニティの当事者に意識変革
- ・島内の意思疎通のきっかけづくり

島内外への効果

- ・関係人口、交流人口の増加
- ・広島のPR
(良さも課題もひっくるめて)

私達が2つの提案を通して実現したいこと

観光より**暮らしの維持**が最優先

この言葉が、強烈に私達の脳裏に焼き付いています。私達が提案するのは、時代に合った流行りの観光スタイルではないかもしれませんが、住民の暮らしや課題を無視した観光振興はサステナブルではないし、幸せな結果を産まないと考えました。私達は以下のような「三方よし」を目指します。

住民よし！ 旅行者よし！ ○○よし！

○○に入るのは、旅行会社かもしれませんが、島外の関係者かもしれませんが。時には行政かもしれませんが。でも、住民は絶対です。島で出会った、広島を愛するみなさんの暮らしが、サステナブルなものになりますように。

以降のスライドは、参考資料です



想定されるQ&A

Q. 研修視察時に入島料は必要ですか？

A. 必要です。

入島料は、島の暮らしを持続可能なものにするために利用されます。広島に「また訪れたい」と思ってもらえるように、主に島内の環境整備に利用します。

Q. 島内で宿泊はできますか？

A. 旅ねこ、ひるねこを利用しても良いが、広島コミュニティセンターを宿泊施設として利用してはどうか。個人向けでなく、あくまでも団体向けとして活用できないか。



広島A班 2020.9.20



想定されるQ&A

Q. 広島内だけで十分な体験はできますか？

A. 十分な体験ができますが、希望があれば他の塩飽諸島にも訪問することができます。

また、参加人数が多い場合は、時間差での対応や塩飽諸島内でコースを分けて訪問することもできます。

Q. 個人の旅行者へのプランはありませんか？

A. 個人旅行者は入島料を支払えば自由に散策できます。ただし、各種見学や視察は教育機関などの団体に限ります。（↑こうすることで、「学生のうちじゃないと行けない」というプレミアをつける）



広島A班 2020.9.20



もっと「観光」に寄せたかったら……

グリーンスローモビリティ（GSM）を導入

■グリーンスローモビリティとは

時速20km未満で公道を走る事が可能な4人乗り以上の電動パブリックモビリティ。導入により、地域が抱える様々な交通の課題の解決や低炭素型交通の確立が期待されている。



豊島／瀬戸内カレン様。観光客用にレンタル事業を展開。



- ・普通免許で公道走れる。山道も可能。
- ・小回りが効く。
- ・最高時速19km。ゆっくり景色を楽しめる。
- ・移動が楽ちん。地域の足としても利用可能。

- ・開放感がある。
- ・大人も楽しめる。
- ・交通量が少なく、自然が美しい地域向き。
- ・映える。

広島A班 2020.9.20





もっと「観光」に寄せたかったら……

空き家に置きみやげ

壁面ラクガキアート

島から帰った後も、島のことを思い出し、「また行きたい」と思える動機づけのため空き家の壁面を利用した「壁面ラクガキアート」を推奨する。



もしかしたら
こうなるかも。

思い出を確認する
ために再訪する



金毘羅宮参道／旅するクジラ

広島A班 2020.9.20



スタディツアーの参考となりそうな事例①

修学旅行や校外学習の行き先に離島を選択する学校がある

小中高校の関係者は、校外学習の行先や総合学習の授業内容の選択肢を探している。

広島A班 2020.9.20



スタディツアーの参考となりそうな事例②

EDUTRIP – 世界の教育に学ぶ旅 –

EDUTRIP - 世界の教育に学ぶ旅 -

近日開催のツアー
upcoming tour

- 日程：2020年2月8日（土）～11日（火）
- 費用：¥88,000～
- 定員：15名
- プログラム：
現地の教育関係者と交流 / 平和教育NPO訪問 / 市民活動・教育運動関係者の方と交流 など

EDUTRIP in 韓国 2020
see more!

- 日程：2020年3月24日（火）～31日（火）
- 費用：¥268,000～
- 定員：25名
- プログラム：
アウシュビッツ博物館見学 / カジミエシュ地区（ユダヤ人街）訪問 / 現地の中高生・教育関係者と交流 など

EDUTRIP in ホーランド&ドイツ

教育と自分を探究する4日間の視察体験型研修

「ひとが育つまち」の秘訣を探しにいこう！

EDUTRIP in 島根（益田・津和野）

EDUTRIP in 島根（益田・津和野）"ひとが育つまち"の秘訣を探しにいこう ～ 教育と自分を探究する4日間の視察体験型研修 ～

詳細
EDUTRIP in 島根 2020（益田・津和野）
"ひとが育つまち"の秘訣を探しにいこう。
～教育と自分を見つめる4日間の視察体験型研修～

2020/10/31 - 11/3
[土]-[火]
13:30 - 18:00 JST

「これからの時代の、よい教育って何だろう？」

EDUTRIPは、教育や子どもに関わる人たちのための視察型・研修型です。今回は、全国から注目される、島根県の益田市・津和野町の国内外の多種多様な教育のカチに触れ、対話を重ねて考え、「よい教育とは？」「私が大事にしたいことは？」「これから自分がやるべきことは？」といった問いの答えや充実の4日間のプログラムです。

「こんな方におすすめです」

- ✓ 教育系の企業やNPOの若手スタッフの方
- ✓ 教育関係での起業やNPO立ち上げ等を考えている方
- ✓ 教員志望の大学生・社会人の方
- ✓ 教育関係の企業やNPOで働きたい学生の方

* * *

島根県益田市駅前町30-20 日本

小中高生の校外学習や総合学習だけでなく、大人の学びを提供する教育旅行や、視察旅行のニーズはある。

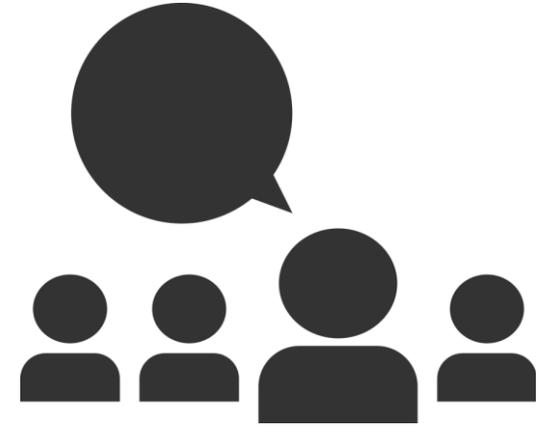
島ごとスペースマーケット

讃岐広島

讃岐広島 B班

大久保翔太 木田誠 古家野克行 下崎公耀 津田美枝 宗時友也

讚岐広島島の島民の意見を振り返る



- ◆島を盛り上げたい
- ◆若い人に住んでもらいたい
- ◆職も店もなければ住むには不便
- ◆まずは観光に来てもらって、知ってもらいたい
- ◆観光客を誘致するにも、高齢化で実践できる人が少ない
- ◆お金もない
- ◆イベントやビジネスは**無理!**

讃岐広島のポテンシャル



ここにしかない場所

尾上邸、日本遺産に認定されている石材産業（青木石）



瀬戸内海の美しい風景

心経山からの360°パノラマ絶景、プライベートビーチ、夕日



島の豊富な食材

瀬戸内は四季を通じて豊富な食材の宝庫

そのまんまが一番 魅力的



この道を抜ければ海が見える

地元の人もお勧めするけど、単なる道

今ないものを作るより、今あるものを
どう活かすか . . .

讃岐広島にある大切な資源を貸します！

島ごとスペースマーケット

場所×人×時間

スペースマーケットとは？

あらゆるスペースを貸し借り可能
ユニークなニーズに対応可能

貸す

- 【利用料金】
- 基本料金＋使用時間＋維持管理費＋手数料

借りる

- 様々なジャンルから希望の場所、広さ、価格から選択可能

島のレンタル登録は史上初に！

讃岐広島にある大切な資源を貸します！



採石場



プライベート
ビーチ



尾上邸



農園

使い方は、あなた次第！



スペース利用の提案① 採石場



- プロジェクションマッピング
- レンタルステージ
- 録音・コンサート・AR VR

スペース利用提案② プライベートビーチ

美しい瀬戸内海国立公園のビーチの空間を貸切利用
茂浦、市井、青木の夕日は最高(島民談)
青木石を使ったテーブルとイスをビーチに設置。
ビーチで島食材を中心としたBBQなど

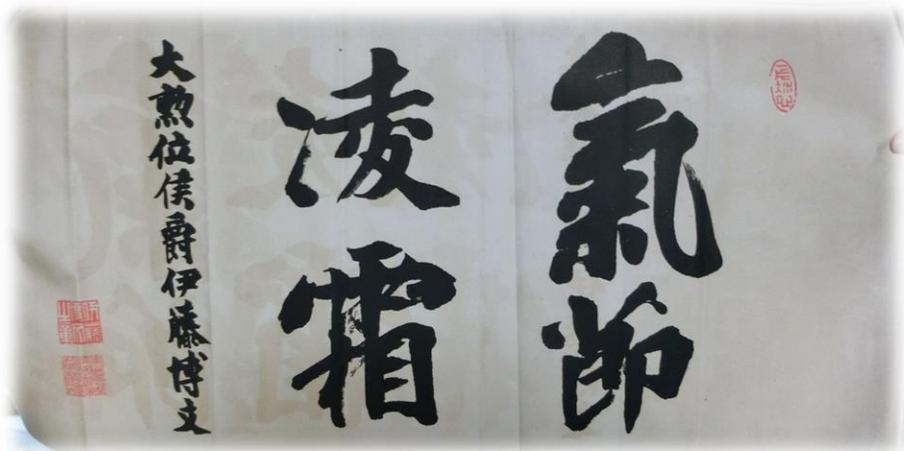


スペース利用提案③ 尾上邸（日本遺産）

総ケヤキ造りに塩飽大工の技術と島の特産「青木石」の見事な石垣

【こだわり】

- ・ 大名のお城のような日本遺産
- ・ 螺鈿の仏間、伊藤博文の書
- ・ かまどが残されている



映画のロケ地

レストラン

スペースを利用して食を提供する場合

新人シェフの腕試しの場

- 県内の調理師学校の生徒や若手シェフにとってのチャレンジの場
- お客様が何度もきても飽きないジャンルや季節の食の提供
- 必要なニーズがある時だけ出張可能
- シェフに考えさせて島食材を活かす料理の提案
- 地元農園の手伝いを兼ねて食材作りから関わる
- 地元の人との継続的な交流
(調理学校×島の方々など)



島内の釣り人口は少なく、混雑しない釣り環境になります。
瀬戸内の海の幸を楽しめる環境です。

自分だけの釣り場、開拓してみませんか？

- 舟、ボートをお貸しします。
- 自分の釣りポイントを自分で見つけられる
- 宿泊施設から自転車で数分の距離に瀬戸内海が
- 岸からスズキ・鯛・ヒラメ、浜際ではカレイなどの高級魚が
- 釣りを楽しみ、調理を楽しみ、海の幸を楽しむ



SNSでまだ取り上げられていない釣り場所
開拓しがいのある釣りスペースをお貸しします。

スペースマーケットを活用した効果

新規性による宣伝効果

島の関係人口の増加

経済効果

知名度の向上

今後の課題

- スペースマーケットを運用するための組織
- 地元の方々の理解と協力体制
- スペースを利用するための整備
 - 尾上邸の改修費用（資金調達）
 - プライベートビーチの利用整備（管理・トイレ設備）
- 受入れ時の島内の移動手段（環境に配慮）



超小型モビリティレンタルサービス（二人用）

ご清聴ありがとうございました。
讃岐広島 B班



Ⅱ 今年度の香川大学大学院地域マネジメント研究科と本四高速による 共同研究事業について

○今後、2022瀬戸内国際芸術祭を目指して、塩飽諸島等において、周遊島旅ツアーの活性化を図るためには、

- ・ まずは、塩飽諸島各島において、地域資源を活かした体験プログラムの企画に取り組み、
- ・ それらにより開発された各島の体験プログラムを、環境教育等のテーマによりピックアップし、それらを参加者ニーズにマッチした移動手段によりつなぎ、飲食・宿泊サービス等を組み合わせた周遊島旅ツアーの企画に取り組む

というステップを踏むことが重要と考えられる。

○これらの観点から、今年度の香川大学大学院地域マネジメント研究科と本四高速は、以下のテーマの共同研究事業に取り組む方針

- (1)塩飽諸島各島の自然環境、歴史・食文化等の地域資源を活かした体験プログラムの企画
- (2)魅力度の高い塩飽諸島等における周遊島旅ツアーの企画

(1) 塩飽諸島各島の自然環境、歴史・食文化等の地域資源を活かした体験プログラムの企画

<自然環境>

- ① 広島における謎解きジオプログラム（ブラタモリ風）
- ② 本島・広島におけるサイクリング等の体験プログラム
- ③ 志々島における地元ガイドによる大楠等の自然に触れる体験プログラム
- ④ 粟島における海洋環境関係体験プログラム
- ⑤ 粟島における総合体験プログラム
- ⑥ 与島遊覧船による校外学習・教育プログラム

※①から④については、環境省の国立公園・国定公園での滞在型周遊プログラム推進事業により執行

① 広島における謎解きジオプログラム（ブラタモリ風）

- 「青木石」という良質な石材の産地である讃岐広島の石切場、王頭砂漠が存する王頭山等において、なぜ砂漠が生じたのか等についてブラタモリのような謎解きを組み入れたジオプログラムの企画に取り組む方針。

- その際には、ジオの専門家、島民の方々との連携による、地元ジオガイド養成も目的としたモデルプログラム等により検討する方針。



丁場



王頭山



② 本島・広島におけるサイクリング等の体験プログラム

- 本島における笠島地区の古い町並みに加えて、島の北側の海岸からの眺望を堪能する島を一周するサイクリングモデルプログラムの企画に取り組む方針。
- また、本島・讃岐広島周辺海域における塩飽海域の動植物、地形、海流、気候等についてのレクチャーを受け、自然環境への理解を深めつつ、瀬戸の海的美しさと穏やかな自然の快適さを楽しむシーカヤックモデルプログラムの企画に取り組む方針。
※シーカヤックについては、安全性、事業採算性の確保等の検証が前提。
- その際、いずれのモデルプログラムにおいても、サイクリング・シーカヤックの専門家、島民等との連携による地元ガイド養成に取り組む構成とする方針。



サイクリングコース(本島北側へ向かう海沿いの道)



シーカヤック

※開催場所は現地調査後に決定



サイクリングコース(笠島集落)



③ 志々島における地元ガイドによる大楠等の自然に触れる体験プログラム

○瀬戸内海屈指の大楠がある志々島で、島民ガイドと、自然に触れる山歩きを実施。

○その際、島民ガイドから、かつての志々島が栄えていた様子、志々島の活性化に向けた夢、島暮らしならではの自然から受ける恩恵、恵み、苦労等について教えてもらい、自然とともに生きることについて考えるきっかけや気づきにつなげるとなるようなプログラム構成とする方針。



横尾の辻



瀬戸内海屈指の大楠



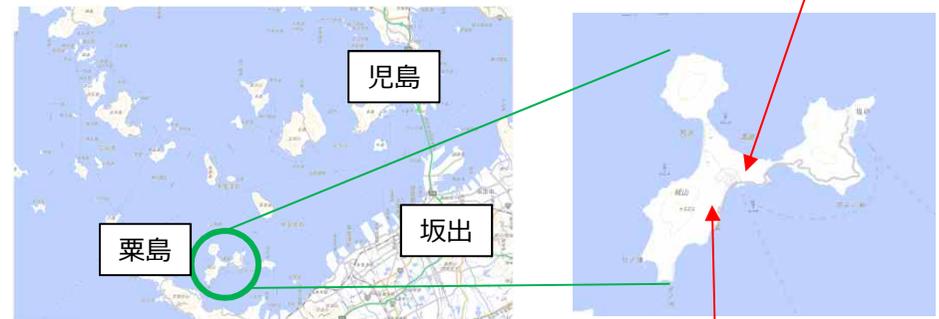
埋め墓

④ 粟島における海洋環境関係体験プログラム

④ - 1 粟島における海ほたる鑑賞体験プログラム

○ル・ポール粟島支配人平木氏の海洋環境問題の話が聞ける「海ほたる鑑賞」は、5月～10月（11月）まで毎夜行なっている。体験プログラムの体験者には、特別に「海ほたるの仕掛けづくり」の段階から参加してもらい、魅力度をあげる。島らしい自然を体験して、海洋環境問題についても学べる体験となるようなプログラム構成とする方針。

○大潮のときは、海の浅瀬鑑賞もコンテンツに追加できると思われる。



海ほたる

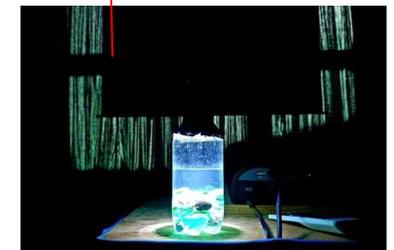
④ - 2 粟島における水ランプづくり体験プログラム

○島民が考えた島民によるレクチャーが魅力となる体験。

○水ランプは、ワインボトルや炭酸水用ペットボトルの容器を用意して、その中に浜辺で拾って来たシーグラスや貝殻を水道水と一緒に容器に入れる。上の部分にLEDライトを設置して完成。

○青く光って夜には幻想的になる。海ほたるとも親和性があり、またシーグラスなどから海洋環境問題について学ぶことができるため、粟島らしいコンテンツである。

○島民との交流で人生を学び、ものづくり（アート）の楽しさを知り、海洋環境問題についても考えるきっかけとなる体験となるようなプログラム構成とする方針。



水ランプ

⑤ 粟島における総合体験プログラム

⑤-1 粟島におけるよもぎ餅づくり体験プログラム

○3月と4月だけの期間限定で体験可能。

島で予めよもぎの新芽を採って準備しておく。体験者とはよもぎ餅をつくる。

(よもぎの採取体験も検討)

季節感のある体験プログラムを造成することで、自然を知り、島に来る価値を感じることができる。

○島では、島のお母さんたちが、春になるとよもぎの葉を摘んでよもぎ餅をつくる習慣があった。島にあるもので生活することは自然に寄り添い、島で生きる知恵でもある。

○よもぎを自ら触り、島の方によもぎ餅の作り方を教えてもらい、その場で食べることで自然の恵みを享受して、豊かな時間を過ごす体験となるようなプログラム構成とする方針。



よもぎ餅

⑤ - 2 粟島における地元ガイドによるおまかせ島満喫体験プログラム

- ルポール粟島支配人 平木氏が、天気や季節、体験者の気分や年齢などに合わせてオリジナルのコースを設定。平木氏と一緒に歩き島を知ってもらう。その際、粟島の歴史を文化自然など島の魅力を題材にした「粟島カルタ」を使った島の散策も。
- 自然や島の暮らしを知りながら、自分を見つめる時間となる体験となるようなプログラム構成とする方針。

例：夕日（西浜）、朝日（ルポール前か城ノ山）、タブの木（梵音寺）、海洋記念公園、ブラジャー観音、馬城八幡神社、ぶいぶいがーでん、漂流郵便局など



夕日(西浜)



朝日(城ノ山)



ブラジャー観音
マップには敢えて載
せない名所)



ぶいぶいがーでん



馬城八幡神社



漂流郵便局



タブの木(梵音寺)

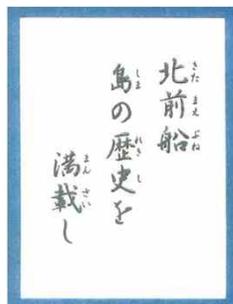


海洋記念公園

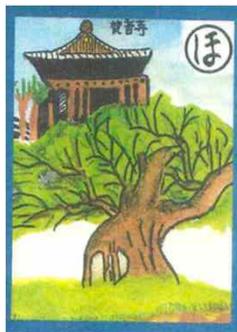
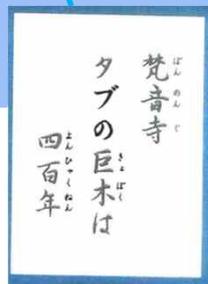
＜粟島いろはカルタの島歩き参考資料＞

歴史を中心に、文化や自然など島の魅力をかきたてアイテムにして散策する。

粟島海員養成学校(現・粟島海洋記念公園)



粟島海員養成学校(現・粟島海洋記念公園)の庭に北前船の係船用石柱や碇が展示されている



歴史ある梵音寺には、島のシンボリックなタブノキが見えある



⑥ 与島遊覧船による校外学習・教育プログラム

- 与島周辺からの瀬戸大橋、灯台眺望の素晴らしさ等を堪能する校外学習・教育プログラムに、280名定員の「めおん」を遊覧船として活用することを検討する方針。
- ターゲットとしては、最近、学習指導要領に海洋・海事学習が盛り込まれたことを勘案して、それらを対象とした小中学校生の半日程度の校外学習を想定。
- 今後、学習テーマ内容、小中学校等とのマッチング手法等の調査検討を進め、今年度中にはパイロット事業化を目指す方針。

(学習テーマ例)

- ・瀬戸大橋における国際航路を通過する船舶視察を通じて我が国の貿易を支える海上輸送の役割の大きさ、船の働き・特徴、ジオ模型による航路と海底地形との関係の説明に加え、鍋島灯台視察を通じた灯台の役割 (R4年150周年を迎え、海上保安庁とのタイアップ検討)
- ・与島周辺の自然環境の素晴らしさ、瀬戸大橋建設時の自然環境に向けた苦労等

※船や船員の仕事に関する船上での機会も提供

与島遊覧船構想

与島～遊覧船～与島間の所要時間：60分程度



<歴史文化>

- ①本島における塩飽歴史体験プログラム
- ②粟島における文化・アート体験プログラム

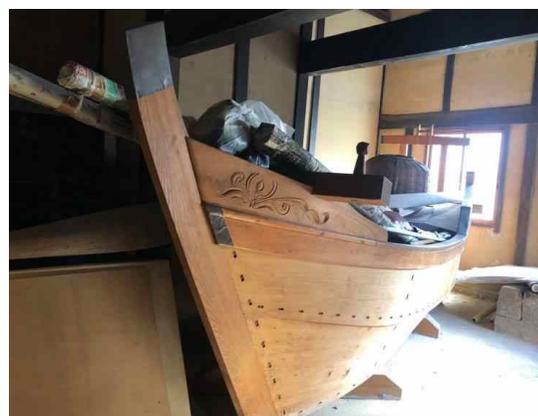
① 本島における塩飽歴史体験プログラム

○戦国時代から江戸時代にかけての塩飽水軍、廻船業、塩飽大工などの本島の歴史事実等を素材として、活性化プログラムを開発する方針。塩飽の歴史をテーマとしたシンポジウムを計画する方針。

○これと併せて笠島地区にある古民家や空き家を地域活性化につながる「場」とするプランも検討する方針。建築系学生およびビジネススクールの学生の空き家対策等についての学びの場としても活用する方針。



笠島の町並み



笠島「ふれあいの(旧真木邸)」内

② 粟島における文化・アート体験プログラム

②-1 粟島におけるワルリー柄ポシエットづくり体験プログラム

○瀬戸内国際芸術祭の作品で、芸術家村（日々の笑学校）にある洞窟アートのワルリー族が描いた絵をポシエットに描き、島のおばあさんたち（6名）に刺繍を覚えてもらう。



ワルリー柄ポシエット

○「ワルリー族の描く絵は自然や文化をモチーフにしている」など、話を聴きながら交流する。お土産としてポシエットを持って帰れる。おばあさんたちが洞窟アートの案内などもできる。



洞窟アート

○「島民と触れ合うことで人生を学べる。また、洞窟アートから自然を理解する体験となる。」ようなプログラム構成とする方針。

②-2 粟島における松田氏作の紙芝居読み聞かせ体験プログラム

○島でさまざまなアート作品などを手掛ける松田氏の「ぶいぶいがーでん」を散策。

その後、松田氏手作りのオリジナルストーリーの紙芝居をぶいぶいがーでんで読んで聞かせていただく。紙芝居やぶいぶいがーでんのアート、松田氏と触れ合うことで、島暮らしの魅力を知り、生きる知恵を授かる体験。



ぶいぶいがーでん



紙芝居

○島民との触れ合いを通して、豊かな時間を過ごす体験となるようなプログラム構成とする方針。

<食文化>

(1) 本島・広島における新名物料理・食文化体験プログラム

観光においてニーズの高まる「伝統に基づいたオーセンティシティ（真正性）」と、サステイナブルな食に求められる「イノベーション（革新）」とのバランスのあり方を、島民と共に食のワークショップやFAMツアーでの食の提供を通して探り、新名物料理、食文化体験プログラムを構築する方針。



(2) 魅力度の高い塩飽諸島等における周遊島旅ツアーの企画内容について

＜海洋環境問題・SDGs等をテーマにした環境教育ツアー＞

- 与島・志々島・粟島において、小中高校生を対象とする環境教育ツアーでの実施可能性をファムトリップにより検証する方針。
- その際には、海洋環境問題やSDGsなどへの理解を高めるツアー構成とする方針。
- また、今回は、宿泊を伴うツアー内容であるが、半日程度の校外学習ニーズへの対応についても併せて検証する方針。

(i)まず、ツアーの冒頭に、与島の塔頂体験で、“世界屈指の多島美を誇る瀬戸内海国立公園を守る”という意識を持ってもらう。

○本四高速が運営する与島については、「塔頂体験」をすることで多島美を眺めながら、瀬戸内海国立公園の説明から始め、例えば、

- ・瀬戸内海の自然（地質、地形、植生、気候、島が多い理由や橋周辺は潮流が速い理由等）
- ・瀬戸内海の美しい景観を守るために瀬戸大橋建設の際にどれほど配慮したか等の建設に携わった方の苦労話

等を教えることを通じて「この美しい瀬戸内海の景観を守ろう」という意識を持ってもらう「出発地」として位置づける。



瀬戸大橋塔頂から眺む塩飽諸島

(ii)次に、志々島の島民ガイドとの島歩きで、自然に触れる体験をする。

○瀬戸内海屈指の大楠がある志々島で、島民ガイドと、自然に触れる山歩きを実施。

○その際、島民ガイドから、かつての志々島が栄えていた様子、志々島の活性化に向けた夢、島暮らしならではの自然から受ける恩恵、恵み、苦労等について教えてもらい、自然とともに生きることについて考えるきっかけや気づきにつなげる。

(iii)最後に、粟島におけるビーチコーミングを通じて、海洋環境問題、SDGsの重要性等について学ぶ体験をする。

○まずは、海ほたるの体験を通じて、海洋汚染問題、地球温暖化による海水温の変化等を学んでもらう。

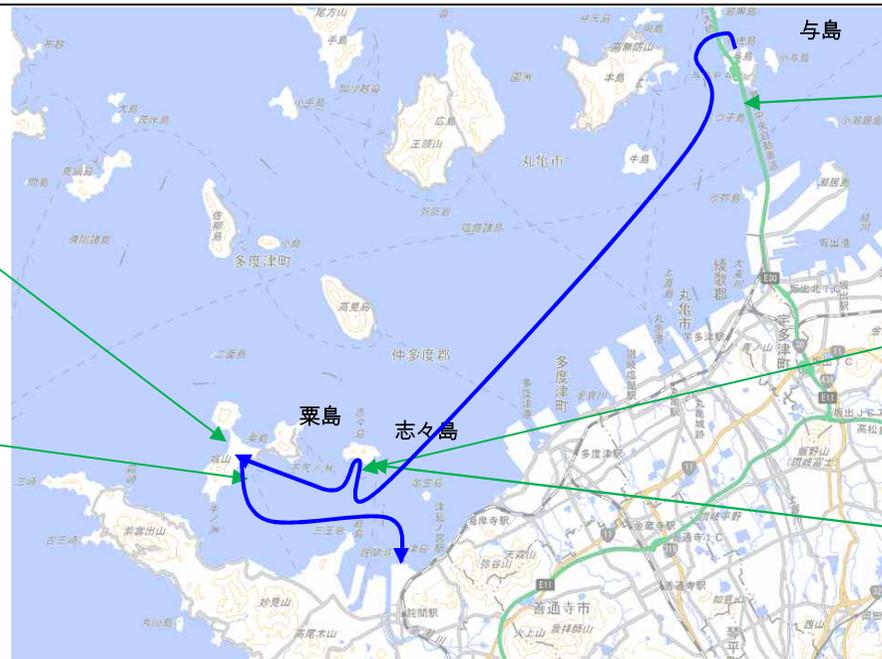
○次に、粟島の海岸で、かがわ里海大学の講座の「海ごみリーダー」と海岸清掃(ビーチコーミング)を実施、あたかも、海からの贈り物を探すような感覚で、シーグラス等を探す。その際には、「海ごみリーダー」から、マイクロプラスチックによる海洋汚染等海洋環境問題、さらには、SDGsの重要性についても教えてもらう。

○その後、粟島の島民と海岸で拾ったシーグラスを材料とする水ランプづくり体験等を実施し、島民との会話等を通じて、ものづくりの楽しさ等を実感してもらう。

※環境省の国立公園・国定公園での滞在型周遊ツアー推進事業により執行



海ほたる



瀬戸大橋塔頂から眺む塩飽諸島



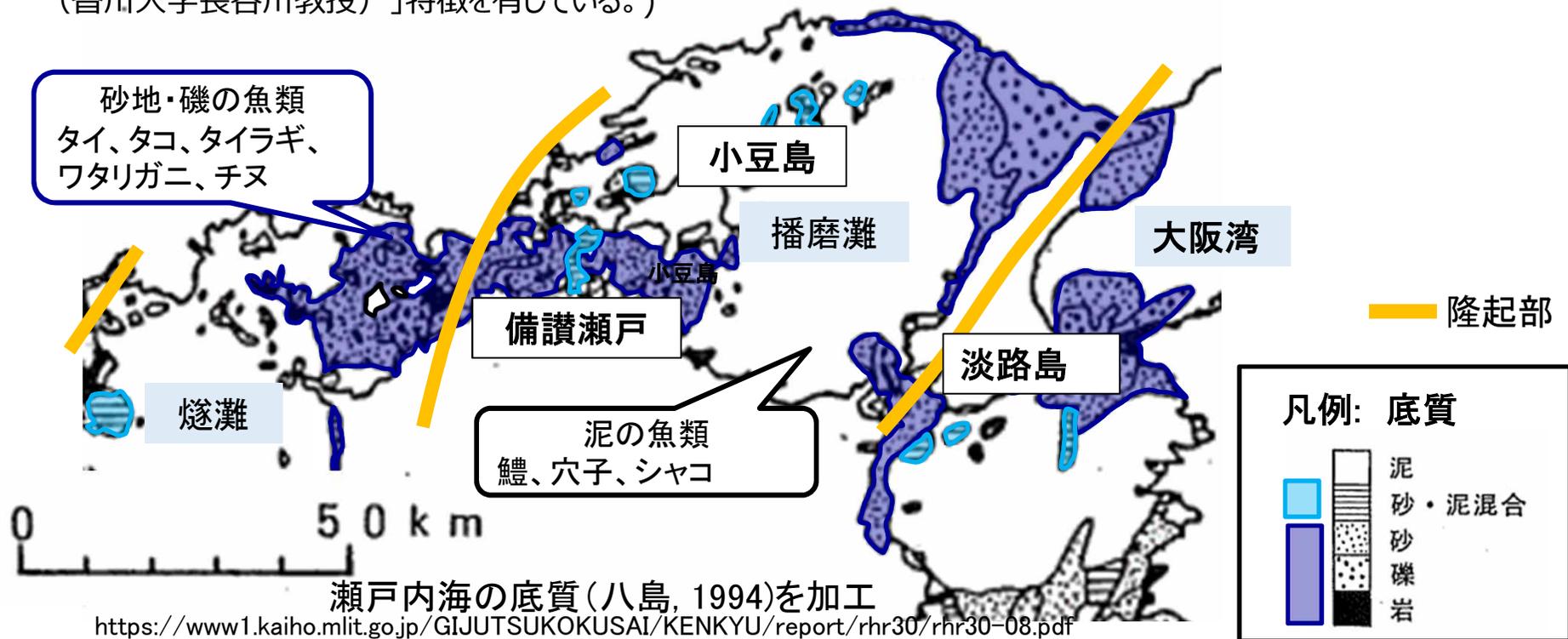
志々島のウォーキングツアー



瀬戸内海屈指の大楠

<インバウンドをターゲットとした「ジオと食」ツアー>

- 今後のアフターコロナを見据え、インバウンド、特に、異文化好奇心が旺盛な旅慣れた欧米豪の知的旅行者をターゲットとした滞在型ツアーの企画可能性について、ファミトリップによる検証とする方針。
- この場合、魅力度の向上の観点からは、塩飽諸島に加え、インバウンドの知名度が高い、小豆島等との組み合わせが求められる。
- その際には、全体を束ねる共通のテーマ設定が求められるが、例えば、「ジオと食」をテーマとした場合、底質によりと魚の生息状況が異なり、砂地の浅瀬ではタイ、泥は鰹、砂・泥混合にはオコゼと、魚もすみわけしている。
(備讃瀬戸と播磨灘の境界に位置する小豆島は、「備讃瀬戸の海の幸と播磨灘の海の幸の両方を味わうことができる(香川大学長谷川教授)」特徴を有している。)



- また、小豆島においては、台地状の山地が形成されているが、これらの山地は、豪雨によって風化した花崗岩が崩壊し、土石流が発生しやすい地盤が多く分布しており、大規模な地すべり地形が形成されている。これらの、地すべりによる緩斜面が棚田、オリーブの栽培地として利用されている。また、土石流により形成された扇状地の末端部分は、砂質の地盤となっており、伝法川河口部、内海湾北東部の醬醃の里の海岸部の干潟では、製塩が行われていた。塩を原材料とした醤油業も塩田の近くで展開されてきた。
- 今後、これらの題材をベースに、ジオの専門家、自治体も含めた島民等との連携により、インバウンドへの訴求性の高いツアー構成とする方針。

※環境省の国立公園・国定公園での滞在型周遊ツアー推進事業により執行



讃岐ジオサイト探訪(香川大学 創造工学部)

<https://www.eng.kagawa-u.ac.jp/~hasegawa/geositePDF/1.pdf>



中山の千枚田



オリーブ公園

<与島発テーマ性の高い周遊島旅ツアー>

①瀬戸内にきらめくアートを巡る島旅（20代～30代の女性層）

島の数だけ歴史や文化、自然などがあり、古代から現代にわたって多くの芸術が生み出されてきた瀬戸内島々。そこに**散らばる魅惑のアート作品や自然の造形美など、数々の“芸術”と出会いにいく島旅**とする。**観るだけでなく、体験したりフオトスポットもめぐる構成**とする方針。

行程

【1日目】

① 与島：瀬戸大橋塔頂体験

（瀬戸大橋という“建設業界の造形美”を堪能し、また多島美を俯瞰して、瀬戸内にきらめく芸術と出会いに行く」という始まりを設定する）与島PAでランチ



瀬戸大橋塔頂体験



石切の溪谷展望所

② 北木島：鶴田石材の「石切の溪谷展望所」と光劇場

（長い石材産業が作り出した採石場で、深さ約70mの岩肌を見て自然の造形美に出会う。光劇場は、昭和20年代～42年まで営業していた島の映画館跡。当時の映写機がそのまま残り、木造の観客席がノスタルジック。現在、石に関するドキュメンタリー映画などが見られる。“映画＝アート”をきっかけに島を知る体験）



光劇場

③ 栗島：*栗島に夕方到着後、18時～19時までは下記2コースの選択制とする。

A：西浜で夕陽鑑賞（美しい夕日に心ときめく時間を過ごす）

B：海ほたるの仕掛け作り体験（「海で見られる芸術＝海ほたる」を仕掛ける）

海ほたるの鑑賞（夜の海で、海洋生物が織りなす幻想的なショータイムを楽しむ）



西浜の夕陽



海ほたる



朝日鑑賞

【2日目】

④ 栗島：朝日鑑賞&栗島海洋記念館で撮影

(朝日を鑑賞してパワーチャージ。大正浪漫あふれる木造の栗島海洋記念館でフォトタイム)

日々の笑学校で洞窟アート鑑賞と刺繍体験

(瀬戸芸の作品を鑑賞し、実際にワルリー族の絵柄を使ったポシェットを刺繍してものづくり体験。島の方にレクチャーしていただく)

⑤ 真鍋島：情緒的な町並みを絵本「MANABESHIMA」を持って散策

(フランス人の絵本作家が島に長期滞在して描いた絵本を持って、

外国人芸術家の目線で見つめた“日本の原風景”を辿って島を歩く。

それにより、島の美しさや良さを再発見する)

⑥ 与島&児島：漆黒に輝く黄金の夜景美を鑑賞する

1：建設業界の芸術作品・瀬戸大橋夜景を鑑賞

ライトアップされた瀬戸大橋を船上から多角的に鑑賞する。

闇夜に浮かぶ黄金の橋は絵画のごとく幻想的な美しさ。

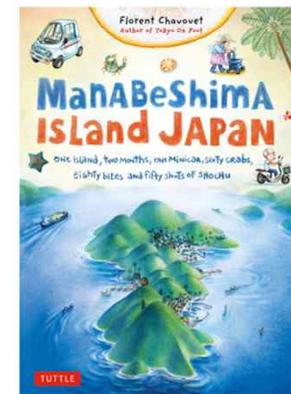
非日常的な時間を過ごし、旅の終盤を迎える。

2：工場夜景美・水島コンビナートを鑑賞

瀬戸大橋の鑑賞後は、巨大な工場地帯・水島コンビナートの夜景を船上から一望する。

陸からは感じられないスケール感と迫力で芸術的な景観を堪能する。

その後、児島で解散。



フランス人画家フロランの絵本。

世界中に翻訳されている。

。パリのルーブル美術館

の土産物屋で売られてい

る。



瀬戸大橋ライトアップ(クルーズ船より)



真鍋島の町並み

【20～30代の女性層・8名程度×小型船チャーターを利用した周遊島旅コース案】



光劇場



石切の溪谷展望所



ワルリー柄
ポシェット



粟島海洋記念館



洞窟アート



海ほたる



西浜の夕陽



朝日鑑賞



真鍋島の町並み



ライトアップクルーズ



塔頂体験ツアー



②家族でとことん島を遊ぶ旅（子育て家族向け）

子供が自然に触れ、島の人と交流し、自分の手で何かを作る体験をすることで、豊かさの価値を肌で感じたり、自然環境問題を考えるきっかけになったりする島旅とする。その島旅で得た感動や発見を、絵日記に書いたり、忘れられない家族との思い出となったりするようなコース構成とする方針。

行程

【1日目】

① 与島：瀬戸大橋塔頂体験

（島や瀬戸内海の自然を俯瞰して「そこへ遊びに行って夏の思い出をつくる」という始まりを設定する）

与島PAでランチ



瀬戸大橋塔頂体験

② 六口島：海水浴と海の家、象岩

（周辺の島で唯一海の家があり、夏気分をたっぷり味わいながら海水浴。普段、チャーターでしかいけない秘境感あふれる島で、家族水入らずで夏休み体験をする。国指定天然記念物「象岩」は自然の神秘を感じるもので、心に残る思い出の一枚となる）



象岩

③ 栗島：西浜で海の宝探し/シーグラス拾い

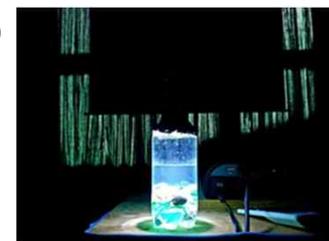
（“海で宝探し”と称して浜辺で漂流物を拾い、楽しみながら、海洋環境問題についても学ぶ）
*18時～19時までは下記2コースの選択制とする。

A：西浜で夕陽鑑賞（美しい夕日を見ながら家族と過ごす）

B：海ほたるの仕掛け作り体験（海の生き物や環境問題を知るきっかけとなる体験）

海ほたるの鑑賞（美しい海ほたるの輝きを見て、忘れられない夏の思い出をつくる。

また、海洋生物を知ることによって海や自然環境に関心を持ってもらう）



水ランプづくり体験

【2日目】

④ 栗島：朝日鑑賞（朝日を鑑賞して島の清々しい空気を体感する）

水ランプづくり体験

（島の人考えた、“あるものだけ”で物づくりをする体験を通して、豊かさや島の人々の生きる知恵に触れられる。拾ったシーグラスなど、“再生利用”する価値も肌で感じてもらう。なにより家族と一緒に島の人と交流する時間は、忘れられない夏の思い出となる）



海ほたる鑑賞

【子育て家族・20名程度×大型船チャーターを利用した周遊島旅コース案】



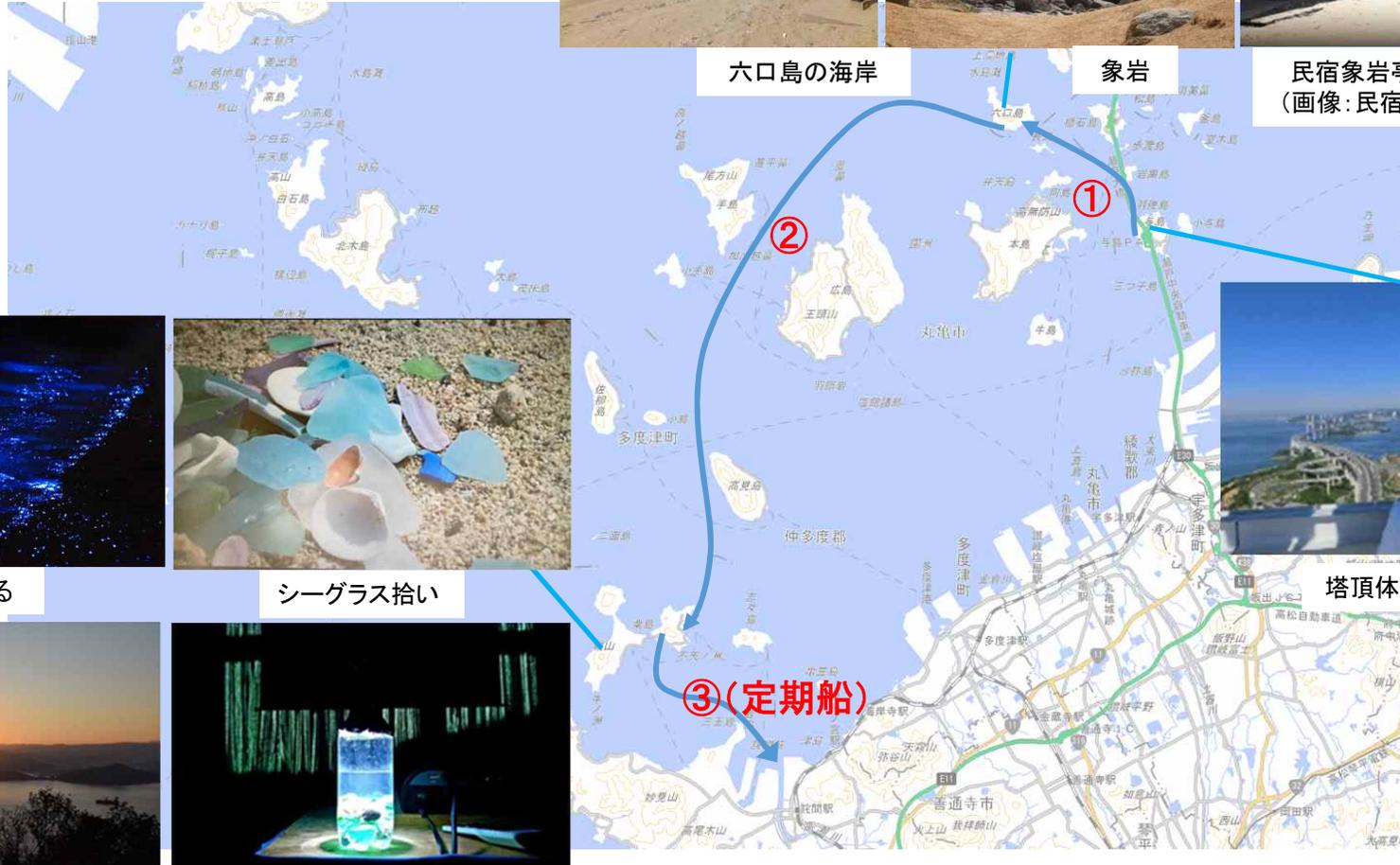
六口島の海岸



象岩



民宿象岩亭の海の家
(画像: 民宿象岩亭HP)



海ほたる



シーグラス拾い



塔頂体験ツアー



朝日鑑賞



水ランプづくり

③瀬戸内海に伝わる島の物語を巡る旅（アクティブシニア層）

古来、日本の歴史における要衝であった瀬戸内海で、その面影を辿り、浪漫あふれる島旅とする。ゆっくりと過ごして悠久の時に思いを馳せながらも、歴史的スポットを押さえて周り、知的好奇心を満たす構成とする方針。

行程

【1日目】

① 与島：瀬戸大橋塔頂体験

（瀬戸内海の多島美を俯瞰して、「この地域に根付く文化や歴史を見に行く」という始まりを設定する）

与島PAでランチ



与島スペシャルランチ



塩飽大工の手がけた家が並ぶ
本島の笠島地区

② 本島：塩飽水軍の本拠地で歴史を辿る

（島のガイドによる案内で、造船や塩飽水軍、塩飽大工の歴史に関するスポットをめぐる）

③ 粟島：平木さんと「粟島いろはカルタ」を持って島歩き

（カルタに描かれた絵をもとに、観光ハイライトスポット*をめくりながら島を歩き、歴史や文化に触れる。）

*タブの木(梵音寺)、海洋記念公園、馬城八幡神社、ぶいぶいがーでん、漂流郵便局など

*18~19時までは下記2コースの選択制とする。

A：西浜で夕陽鑑賞（美しい夕日に郷愁を感じる時間を過ごす）

B：海ほたるの仕掛け作り体験（島の生態や自然に触れ、文化に触れる）

海ほたるの鑑賞（海や船と深く関わってきた島らしい神秘的光景に出会う）



粟島いろはカルタ



西浜の夕陽

【2日目】

④ 粟島：下記3コースの選択制とする

A：のんびり過ごす（朝日鑑賞や海洋記念館を眺め、散策して、ゆっくりと島を感じて過ごす）

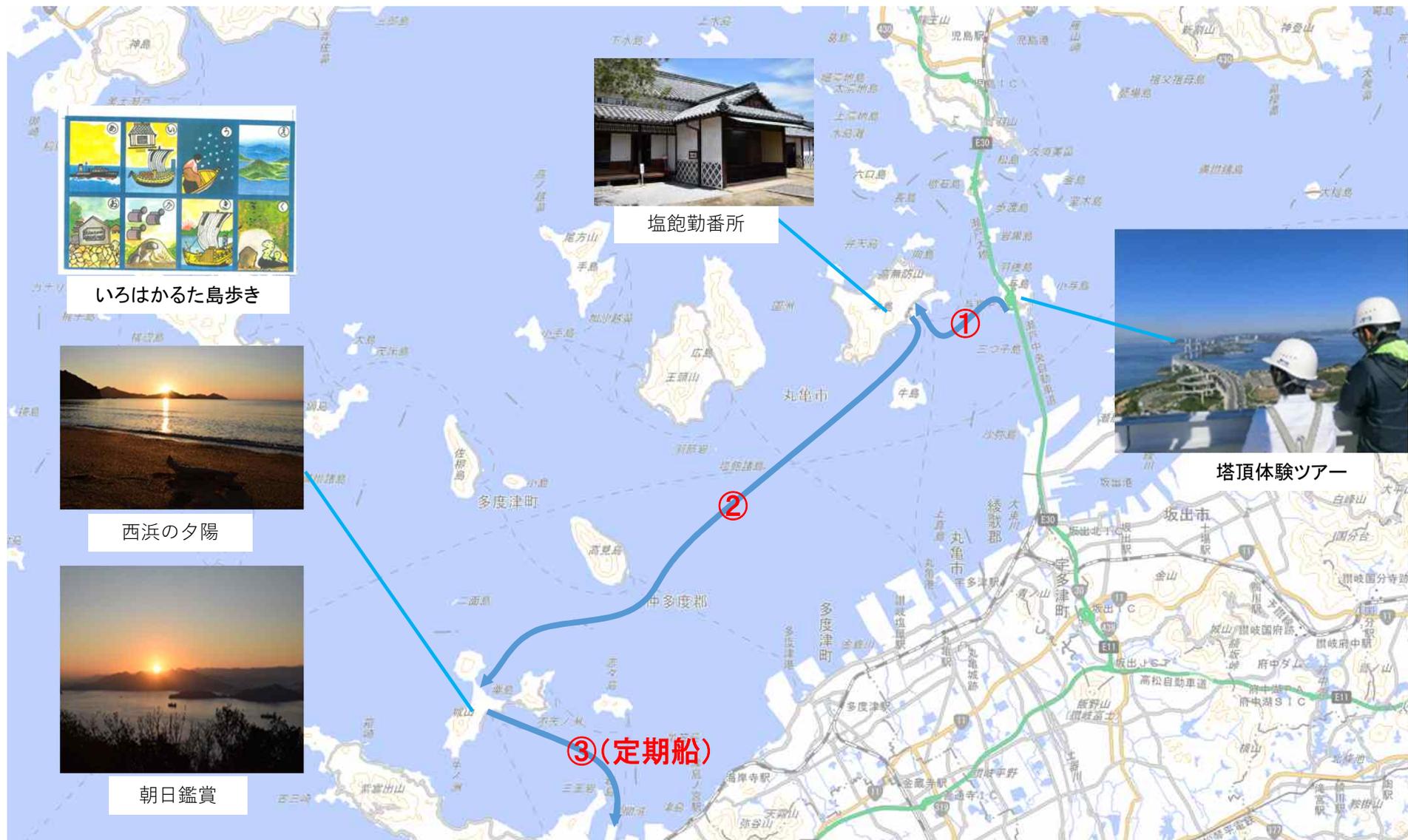
B：体を動かしたい（城ノ山登山をして島の自然に触れ、朝日を鑑賞。その後島を自由に散策）

C：歴史探訪したい（粟島いろはカルタを使って歴史探訪をしたり、元船乗りの島民と交流）



城ノ山から見る朝焼け

【アクティブシニア層・12名程度×中型船チャーターを利用した周遊島旅コース案】



2020年FAMツアー（本島）での食の提供におけるオーセンティシティとイノベーション

【実施日等：2020年11月5日、12月7日 本島（笠島地区：吉田邸） インバウンド向けFAMツアー】



NEO押し抜き寿司



NEOあん餅雑煮

◆オーセンティシティ（伝統面）

- ・本島笠島の古民家吉田邸での食の提供
- ・伝統料理を基にした料理
- ・香川漆器での料理の提供
- ・食にまつわる風習（ストーリー）を紙芝居で解説

◆イノベーション（革新面）

- ・NEO伝統料理（フルーツを用いた押し抜き寿司、デザート風あん餅雑煮）
- ・オリーブオイルの活用（寿司、刺身、あん餅雑煮）
- ・香川県漆芸研究所生作の斬新なデザインの漆器

◆FAMツアーから得られた好感触ポイント

- ・地元食材、伝統料理、器へのこだわりは高評価であった。
- ・料理の美しさ、美味しさには十分満足いただけた。
- ・紙芝居を用いたストーリー解説が分かりやすく良い。
- ・吉田邸での食事の提供はとても良い。（椅子、机が必要）

◆FAMツアーから得られた工夫すべきポイント

- ・食体験と購買をつなげる仕組み作り
- ・「和」の場で「洋」の食を取り入れる取り組み
- ・紙芝居のストーリーをパンフレットで配布する
- ・食のワークショップの実施

2021年 6月21日

本州四国連絡高速道路株式会社・香川大学大学院地域マネジメント研究科
共同研究報告

新型コロナウイルス感染症による 旅行及び観光に関する 意識変容の実態と今後の展望

香川大学大学院地域マネジメント研究科
関 庚炫

本調査分析の背景・目的

●近年、新型コロナウイルス感染症の拡散により、感染拡大を防ぐための多種多様な政策が行われおり、その過程において製造業から立地型サービス産業、旅行・観光業に至るまで、諸産業における量的・質的成長が明示的に阻害されつつある。

●旅行及び観光産業に関わる企業や地域は、感染症リスクがもたらしている様々な変化を把握し、その結果を旅行・観光行動を促すための戦略的ツールとして活用するとともに、諸戦略の効果を包括的に評価する必要がある。

●しかし、感染症リスクが旅行・観光産業に与える影響は多様性の様相を呈しているがゆえに、コロナ禍以降、変化した市場環境における消費者の意識変容や訪問・観光意向といった行動を促す戦略の立案・実行に関する諸情報が十分に吟味されているとは言い難い現状にある。

●コロナ前後におけるライフスタイルや、旅行及び観光に関する動機付け要因の構造、態度及び行動の変容を把握するとともに、旅行先に求める価値構造とその構成要素を照合することで、今後の観光振興における戦略的方向性の詳細を明確に規定する上での基礎資料となる情報を確保するための研究・調査の実施が求められている。



●2020年11月から2021年2月にかけて作成・実施した全国アンケート調査の結果に基づき、先行研究で提示されている動機付け及び態度モデルに依拠しつつ、国内の生活者の価値観や生活様式、旅行及び観光に関する意識変容全般に関する分析を行った。

調査概要

●調査対象者

- ・調査対象者は、47都道府県の20~80代の男女1000名。

●調査設計

ウェブ上で実施された本調査は、「生活者としての価値観」「旅行・観光関連行動の実体と意向」「旅行・観光に関する目的及び動機付け要因」「コロナ禍における旅行・観光行動に関する意識」「旅行・観光先に求める価値構造」など、旅行・観光行動に関連する諸要素が適宜反映された計268項目のアンケートを回答者全員に提示し、「コロナ禍の前」「コロナ禍中（現在）」「コロナ禍収束後」の3つの時点における各設問に答えてもらう形式となっている。



*出所：Pearce & Lee(2005)・Crompton, Fakeye & Lue (1992)・Dolnicar(2015)に基づき作成。

主要分析結果

●コロナ前後における生活者としての価値観の変化

		コロナ前		コロナ後	
		平均値	SD	平均値	SD
貢献志向型	地域貢献***	2.85	.984	2.80	1.021
	ボランティア	2.49	1.078	2.46	1.069
	寄付する***	2.46	1.031	2.54	1.082
	社会貢献***	2.66	.997	2.73	1.027
	平和に貢献**	2.61	1.017	2.65	1.023
	環境に貢献**	3.21	.980	3.26	1.018
生活・健康重視型	ワークライフバランス	3.49	1.050	3.52	1.083
	自己啓発**	3.29	.970	3.21	1.037
	家族重視***	3.89	.963	3.96	1.013
	趣味活動**	3.48	1.026	3.39	1.059
	健康重視***	3.86	.917	3.96	.982
	長生き	3.35	.909	3.37	.974
	友人重視***	3.45	1.020	2.95	1.107
	新たな挑戦***	3.08	.967	2.93	1.045
仕事重視型	収入重視***	2.99	1.045	2.78	1.129
	有名願望	2.00	.970	2.00	.999
	高い地位***	2.25	1.058	2.18	1.072
	仕事重視***	3.20	1.112	3.05	1.151

貢献志向の項目を重視する傾向が強まっており、収入や地位、仕事に関連する項目の相対的重要度は低下している。

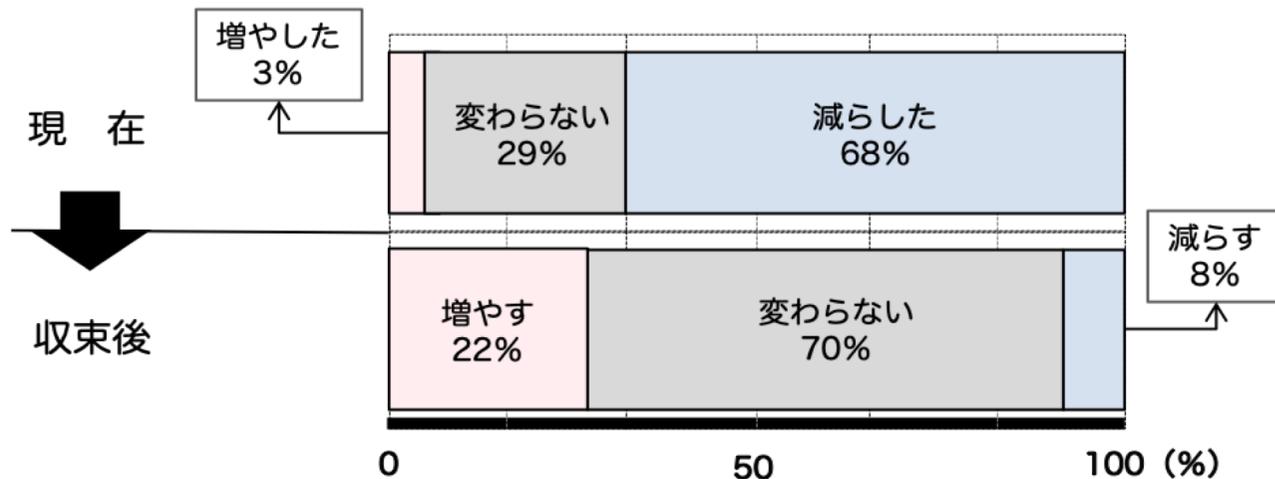
家族や健康に関する評価が向上し、自己啓発・趣味活動・友人・新たな挑戦に関する評価は低下している。

コロナ以降、貢献志向全般が強まり、自己啓発や趣味活動、友人、挑戦意欲よりは、家族と健康に対する意識を中心に生活と仕事の調和を図ろうとする傾向が強まっている。

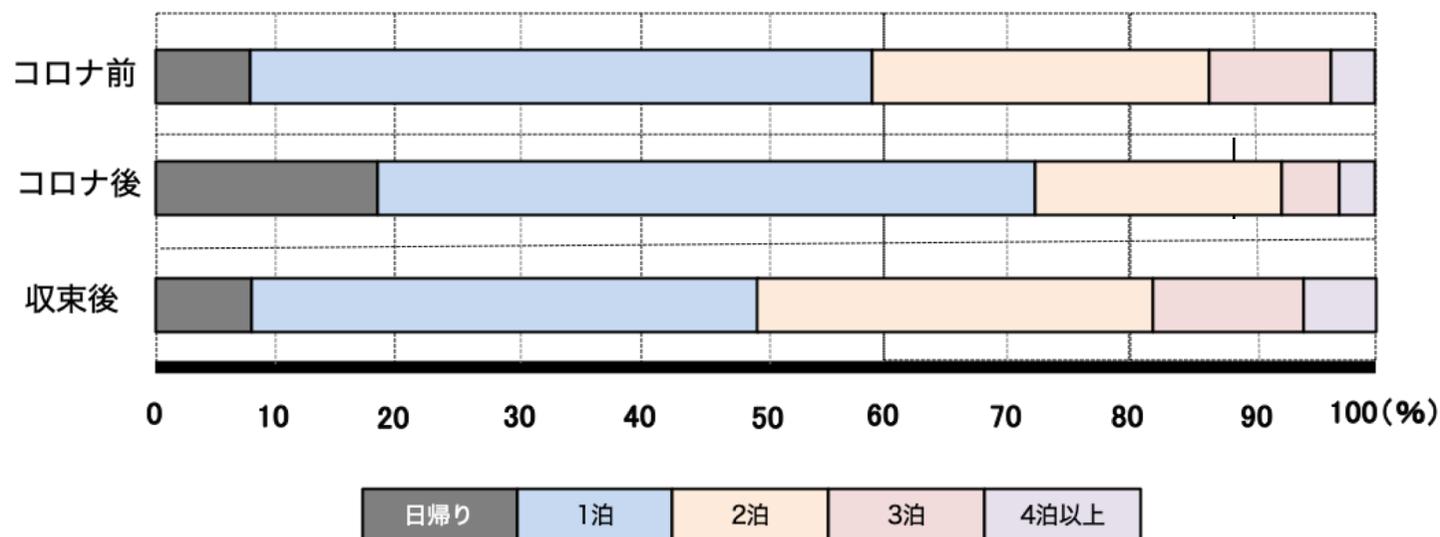
*は10%水準で有意、**は5%水準で有意、***は1%水準で有意を示している。

●コロナ前後における旅行・観光行動の実態：①旅行への支出金額

- コロナ前における1回当たりの支出額は平均70,900円で、10万円までの区間が全体の90.7%を占めていた。
- 「コロナ禍になる前」と比べ支出を増やすか否かについて「コロナ後（現在）」「コロナ収束後」の2つの時点において回答を求めた結果、「コロナ禍の後（現在）」では68.4%が「減らした」、28.9%が「変わらない」と回答したのに対し、「コロナ禍収束後」では21.5%が「増やす」、70.2%が「変わらない」と回答していた。



●コロナ前後における旅行・観光行動の実態：②旅行日数



- コロナ禍になってから「日帰り (18.6%)」、「1泊 (53.3%)」が有意に増えており、過去に比べ比較的短期間の旅行に移行していることが確認された。
- 「コロナ収束後」では、コロナ禍になる前と比べ「1泊 (40.6%)」の割合が著し低下したのに対し、「2泊 (33.1%)」「3泊 (12.6%)」「4泊以上 (6.4%)」の割合は統計的に有意な水準で向上したことが確認された。

主要分析結果

●コロナ前後における旅行・観光行動の実態：③旅行意向

		全くそう 思わない	あまりそう 思わない	どちらとも 言えない	ややそう 思う	非常に そう思う
男性	20代	0	0	14.3	23.8	61.9
	30代	5.5	5.5	9.1	29.1	50.9
	40代	0	6.5	14.6	19.5	59.3
	50代	2.0	3.9	1.5	23.5	55.6
	60代	3.4	4.0	10.7	23.5	58.4
	70代以上	0	6.0	8.5	20.7	62.1
	男性合計	1.9	4.8	12.3	22.8	58.1
女性	20代	8.8	2.9	5.9	23.5	58.8
	30代	2.5	3.8	12.7	15.2	65.8
	40代	4.5	3.0	15.8	25.6	51.1
	50代	1.1	4.3	11.7	28.7	54.3
	60代	1.6	3.1	10.9	23.4	60.9
	70代以上	0	0	15.4	30.8	53.8
	女性合計	3.1	3.4	12.7	24.4	56.8
合計	2.4	4.2	12.5	23.3	57.6	

(1%水準で有意)

- 全体の80.9%が「ややそう思う」「非常にそう思う」というポジティブな意向を示した。
- 男性20代と70代以上、女性20～30代と60代においてより顕著であった。
- このような結果は、幅広い年代において新型コロナウイルスの収束を見据えた潜在的行動意向を示している。
- 行動意向は将来における行動遂行の意志や信念、願望が含む概念であり (Ajzen, 1991)、今後、旅行意欲が回復する可能性を示している。

主要分析結果

●コロナ前後における旅行・観光に関する動機付け要因の変化（全体）

		コロナ前		コロナ後	
		平均値	SD	平均値	SD
安全	衛生管理	3.52	.904	3.49	1.149
	医療施設 ***	3.07	.990	3.24	1.121
	有名な地域 ***	3.84	.974	3.26	1.121
	賑わいのある ***	3.07	1.007	2.65	1.074
	馴染みの地域 ***	3.19	.896	3.03	1.027
自己実現 自己啓発	史跡探求 ***	3.72	1.031	3.24	1.168
	好奇心を満たす ***	3.51	.937	3.16	1.081
	自己発見 ***	2.95	.991	2.83	1.081
	自己理解 ***	2.90	1.004	2.82	1.081
	自己研鑽 ***	2.78	1.026	2.76	1.068
	新しい生き方	2.85	1.026	2.79	1.068
	自分だけの体験 ***	3.16	.973	2.95	1.064
	文化・歴史を知る ***	3.71	.951	3.36	1.095
	地域価値観を知る ***	3.41	.978	3.16	1.061
	知識の取得 ***	3.33	.904	3.11	1.011
休養	買い物を楽しむ ***	3.71	.977	3.34	1.141
	料理を楽しむ ***	3.94	.975	3.55	1.164
	お酒を楽しむ ***	3.10	1.274	2.92	1.263
	贅沢な旅 ***	3.40	1.044	3.14	1.154
	古き良き時代 ***	3.33	.940	3.12	1.082
	ストレス発散 ***	3.87	.914	3.51	1.124
	思い出の場所 ***	3.13	.972	2.98	1.006
	思い出づくり ***	3.80	.955	3.47	1.123
	休みたい ***	3.67	1.084	3.48	1.178
	心を癒す ***	3.92	.941	3.74	1.101
関係・交流	自然を楽しむ ***	3.80	.955	3.57	1.117
	気分転換 ***	4.02	.894	3.69	1.082
	ゆったりした時間 ***	3.94	.889	3.66	1.078
	現地文化 ***	3.36	1.004	2.95	1.092
	現地交流 ***	2.93	1.070	2.59	1.093
承認・評価	類似集団 ***	3.36	1.004	2.95	1.092
	家族と楽しむ ***	3.93	1.071	3.71	1.192
	友人と楽しむ ***	3.47	1.140	3.21	1.217
	地域行事に参加 ***	3.33	.964	3.05	1.051
刺激	自慢できる体験 ***	2.87	1.062	2.57	1.076
	人に評価される ***	2.56	1.062	2.47	1.082
	冒険を楽しむ ***	2.89	1.042	2.67	1.102
	非計画 ***	3.11	1.054	2.90	1.112
	アウトドア ***	2.96	1.088	2.78	1.121
	希少体験 ***	3.28	.976	2.97	1.048
	刺激を楽しむ ***	3.33	.922	3.03	1.055
	非日常 ***	3.55	1.038	3.21	1.145
人は知らない地域 ***	3.11	.977	2.97	1.066	

- 感染リスクの回避行動と関連している「医療施設」の充実さに関する評価を除き、それ以外の項目の評価はコロナ前に比べ総じて低下していた。
- 「安全」「休養」「関係・交流」カテゴリーの各項目のうち、人との接触機会が多いと想定される項目が大幅に低下していることが確認された。
- 上記3つのカテゴリーは、いずれもコロナ前の初期評価が相対的に高いカテゴリーであり、コロナ以降、当該動因に基づく欲求を満たす手段が旅行・観光行動以外の代案により代替されている可能性が考えられる。
- 「休養」カテゴリーに属する項目に対する評価水準が比較的高い水準となっており、コロナ禍の現状においても「ストレス発散」「休みたい」「心を癒す」「自然を楽しむ」「気分転換」「ゆったりした時間」などといった、休養、ヒーリングに関連する動因の評価が相対的に高い水準を維持していた。

*は10%水準で有意、**は5%水準で有意、***は1%水準で有意を示している。

主要分析結果

●コロナ前後における旅行・観光に関する動機付け要因の変化（関与度別）

	高関与群		低関与群		
	コロナ前	コロナ後	コロナ前	コロナ後	
安全	衛生管理	3.43	3.56	3.28	3.42
	医療施設	3.13	3.26	3.01	3.24
	有名な地域	3.92	3.28	3.75	3.25
	賑わいのある	3.11	2.63	3.01	2.69
	馴染みの地域	3.27	3.08	3.06	2.98
自己実現 自己啓発	史跡探求	3.80	3.26	3.60	3.22
	好奇心を満たす	3.62	3.20	3.26	3.11
	自己発見	3.01	2.85	2.87	2.82
	自己理解	2.95	2.82	2.81	2.81
	自己研鑽	2.80	2.76	2.74	2.77
	新しい生き方	2.88	2.81	2.80	2.77
	自分だけの体験	3.21	2.96	3.08	2.94
	文化・歴史を知る	3.79	3.43	3.59	3.27
	地域価値観を知る	3.39	3.21	3.24	3.09
	知識の取得	3.39	3.12	3.24	3.12
休養	買い物を楽しむ	3.77	3.36	3.62	3.35
	料理を楽しむ	4.00	3.55	3.85	3.36
	お酒を楽しむ	3.15	2.93	3.04	2.92
	贅沢な旅	3.51	3.20	3.24	3.08
	古き良き時代	3.42	3.17	3.21	3.08
	ストレス発散	3.97	3.58	3.73	3.42
	思い出の場所	3.19	3.00	3.04	2.95
	思い出づくり	3.89	3.48	3.70	3.47
	休みたい	3.69	3.51	3.66	3.45
	心を癒す	4.00	3.78	3.82	3.73
	自然を楽しむ	3.89	3.62	3.68	3.52
	気分転換	4.13	3.73	3.87	3.64
	ゆったりした時間	4.04	3.71	3.77	3.60
関係・交流	現地文化	3.43	2.95	2.97	2.97
	現地交流	3.00	2.56	2.82	2.65
	類似集団	2.75	2.50	2.57	2.53
	家族と楽しむ	3.99	3.73	3.87	3.69
	友人と楽しむ	3.58	3.27	3.22	3.11
地域行事に参加	3.39	3.06	3.24	3.06	
承認・評価	自慢できる体験	2.84	2.58	2.78	2.58
	人に評価される	2.60	2.45	2.50	2.52
刺激	冒険を楽しむ	2.95	2.28	2.8	2.67
	非計画	3.18	2.91	3.01	2.90
	アウトドア	3.03	2.80	2.84	2.76
	希少体験	3.35	3.00	3.17	2.93
	刺激を楽しむ	3.43	3.08	3.19	2.99
	非日常	3.65	3.26	3.39	3.14
人は知らない地域	3.19	2.99	2.99	2.93	

- 全体の傾向は、年間の旅行頻度の高いグループ（高関与群）と低いグループ（低関与群）においても同様に確認された。
- 特にコロナ前においては、ほぼ全項目で高関与群の評価水準が有意に高かったのに対し、コロナ以降においては両グループ間の差が大幅に縮小していた。



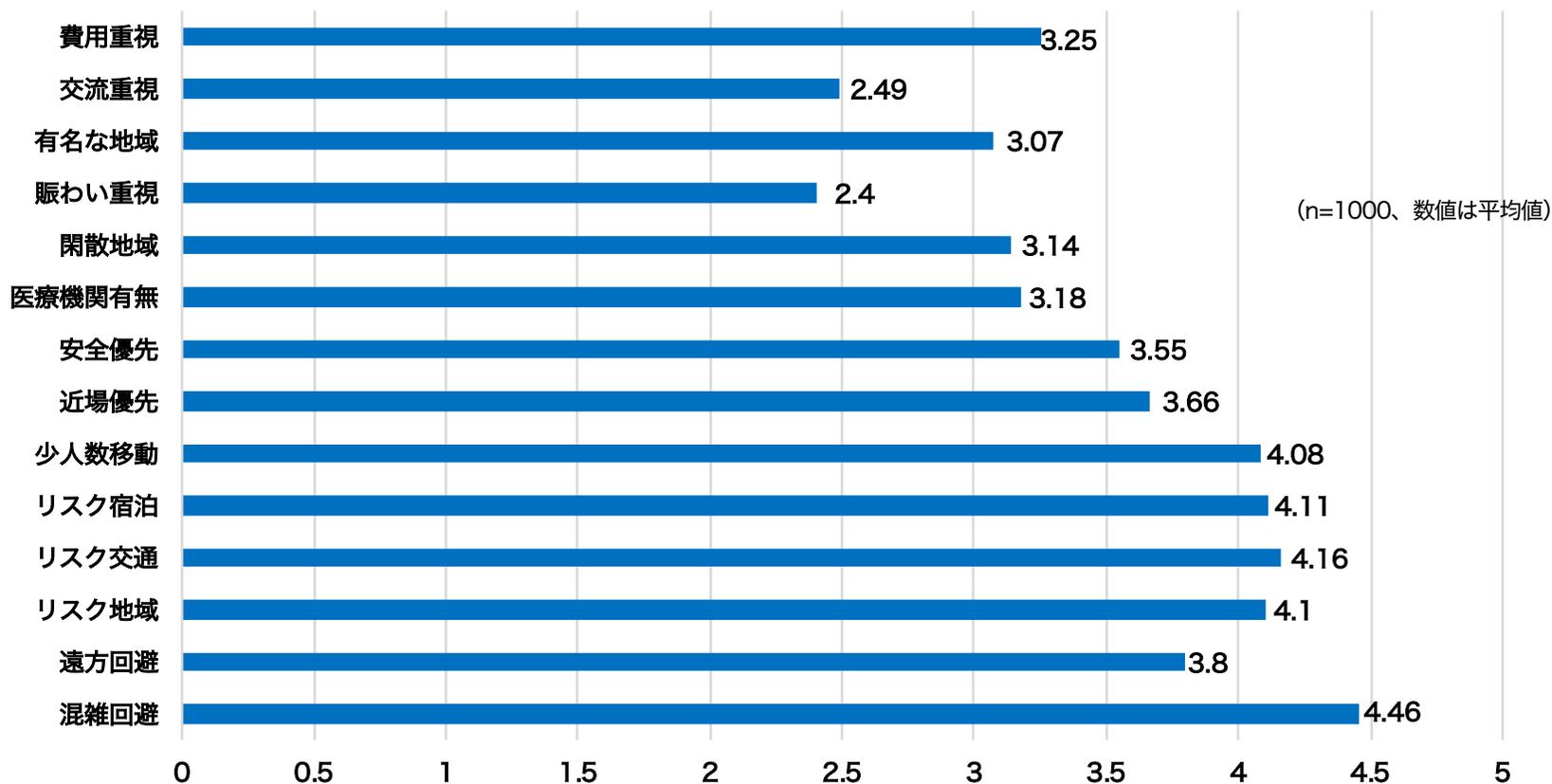
このような結果は、高関与群の評価がより顕著に低下していることを意味している。

主要顧客層でもある高関与群における旅行・観光に関する動因を強化するための施策が求められている。

*は10%水準で有意、**は5%水準で有意、***は1%水準で有意を示している。

主要分析結果

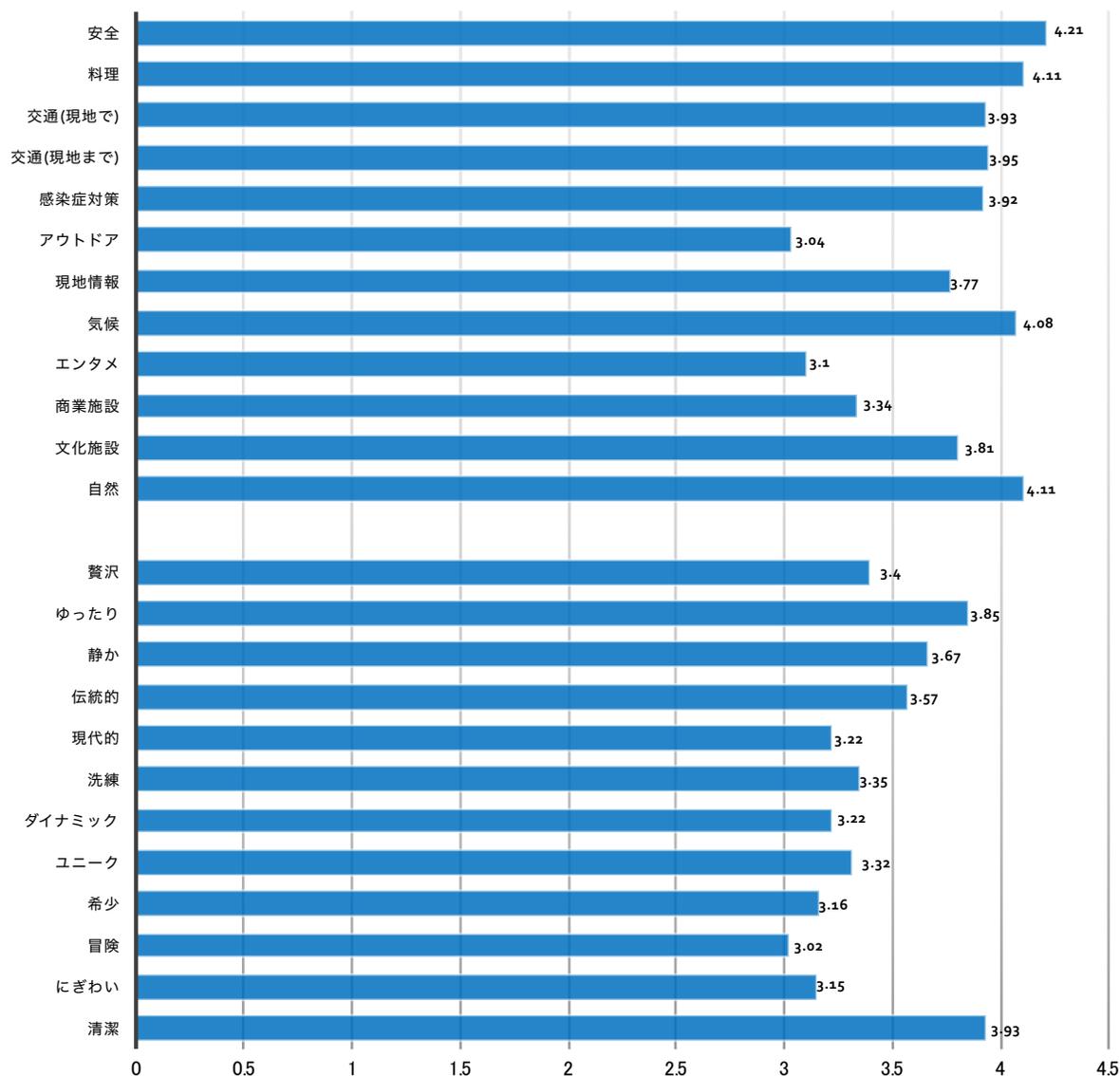
●知覚リスクに関する意識構造



- 「費用重視」「交流重視」「有名な地域」「賑わい重視」は、リスク回避との関連性が低い項目で、総じて低い評価になっており、それ以外のリスク回避行動に関連する項目は総じて高い評価になっていた。
- このような傾向は、年間の旅行頻度の高いグループ（高関与群）においてより顕著に現れており、知覚リスクに対して、より弾力的に反応していることが確認された。

主要分析結果

●旅行・観光先に求める価値構造



(n=1000、数値は平均値)

- いずれの項目においても一定水準以上の評価となっており、中でも特に「安全」「料理」「気候」「自然」「交通」「感染対策」などの認知的評価が総じて高く評価されていた。それに対して、「アウトドア」「エンタメ」「商業施設」などは相対的に低水準にとどまっていた。
- 情緒的評価項目では、「ゆったり」「静か」「伝統的」「清潔」が高く評価されていたのに対し、「冒険」「賑わい」「希少」といった項目は相対的に低い評価となっていた。

コロナ禍のもと、人との接触機会が多い施設利用を伴う項目や刺激的体験に関連する項目に対する評価が著しく阻害されていることが確認された。

● 今後の展望・課題

- 今後、旅行・観光に対するニーズや需要が、団体旅行や特定の店舗、イベント参加など、比較的多い人数を前提とした旅行商品から、少人数・小規模で旅行者のニーズや嗜好に基づき企画される多様なツアー商品や個人手配旅行のような、より能動的できめ細かくカスタマイズされた旅行商品へ移行される可能性がある。
- これまで観光地として注目されなかった知名度の低い地域でも、休養・ヒーリング関連コンテンツを有する接近性の高い地域を中心とした旅行が増える可能性に備えることで、当該地域への訪問意向が喚起されるとともに、旅行・観光産業の主要顧客層との接点を開拓する余地を見出すことができると考えられる。
- 今後、自然環境や歴史文化など、地域固有のコンテンツ及び資源の価値を見直し、環境保全や持続可能性の模索がともに行われるエコーツーリズムの訴求力がさらに強化される可能性がある。



特定の観光地における各種コンテンツ及び有形・無形資源の訴求力の評価や、特定の顧客グループにおける知覚リスクとその反応に関する解釈方法などの問題も取り組むべきテーマになり得る。今後、本調査における分析結果に基づき、より綿密に設計された後続調査を行うことで、様々な戦略現場で共有し活用できる、より実践的な知見を見出すことが可能になると考えられる。